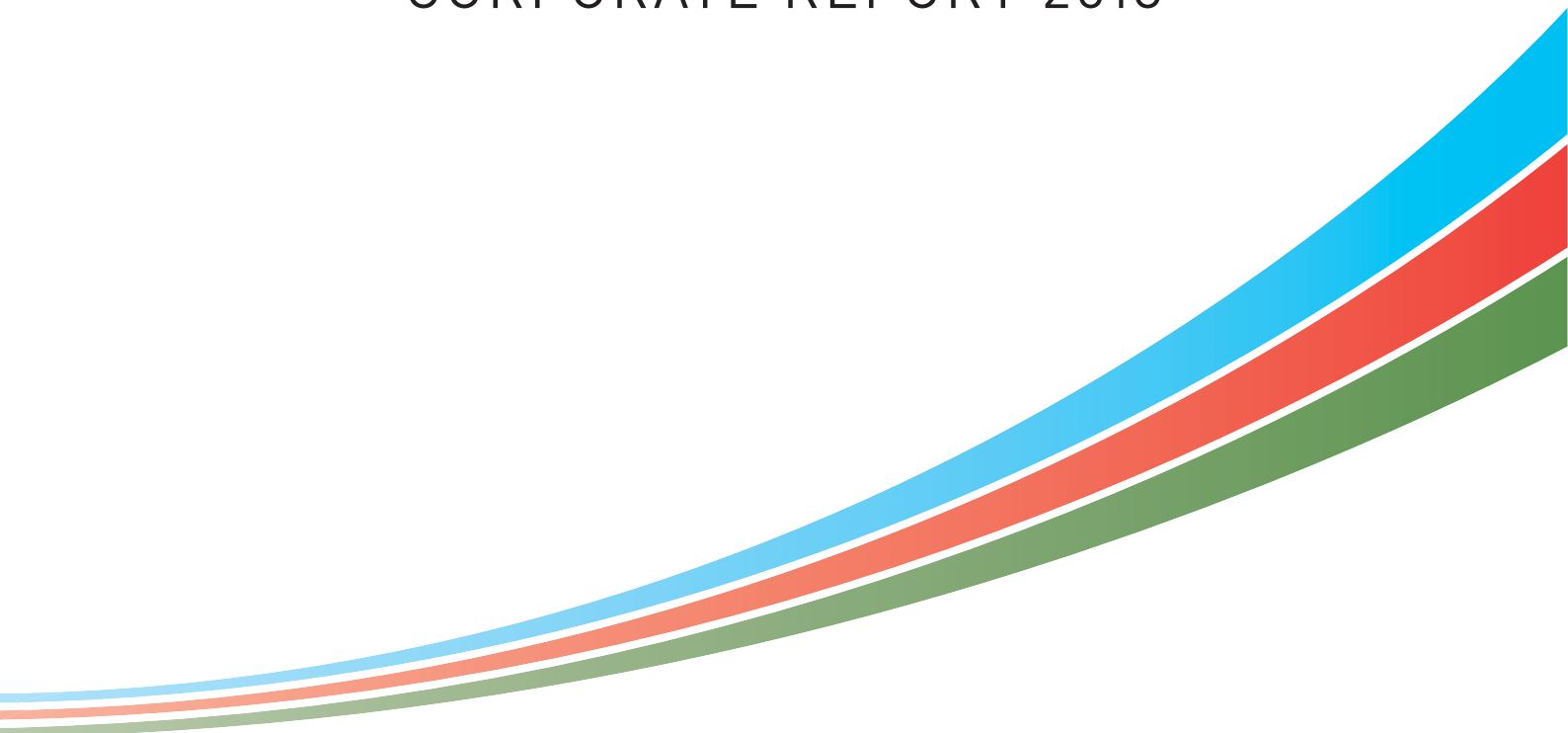


CORPORATE REPORT 2018



この手で守る自然と資源

Contents

| | |
|---------------------------------|----|
| 会社概要 | 01 |
| アサヒホールディングスを知る | |
| トップメッセージ | 02 |
| アサヒウェイ | 03 |
| これからのアサヒホールディングス (第8次中期経営計画) | 04 |
| アサヒホールディングスの歩み | 06 |
| アサヒホールディングスの価値創造 | 08 |
| アサヒホールディングスの事業領域 | |
| 3つの事業領域 | 10 |
| 事業紹介 | 12 |
| 貴金属事業 | 12 |
| 環境保全事業 | 18 |
| ライフ&ヘルス事業 | 22 |

| | |
|---------------------|----|
| ESGの取り組み | |
| G 企業統治 | |
| コーポレートガバナンス | 26 |
| リスクマネジメント | 28 |
| 役員紹介 | 29 |
| E 環境 | |
| アサヒホールディングスの環境貢献 | 30 |
| 環境マネジメント | 32 |
| 地球温暖化防止への取り組み | 33 |
| S 社会 | |
| 健康経営・安全な職場づくり | 34 |
| ワークライフバランス | 34 |
| ダイバーシティ・インクルージョン | 35 |
| 人材育成 | 35 |
| ステークホルダーとのコミュニケーション | 36 |
| グループ会社体系図 | 39 |
| 財務ハイライト・非財務ハイライト | 40 |

グループシンボルマークについて
スパイラルをモチーフにしたシンボルマークは事業特徴である循環による環境保全を追求していくという企業姿勢や継続性、成長性を意味しています。また、上下に伸びる矢印は先進的で躍動的な企業であることを表現しています。青・赤・緑の3色はそれぞれが「清らかな水・空」、「人間が活動していくエネルギー」、「美しい自然や森」を象徴しています。



アサヒホールディングス株式会社

創 業：1952年7月
 設 立：2009年4月
 資 本 金：7,790百万円
 代表取締役：寺山 満春(会長) 東浦 知哉(社長)
 本 社：〒650-0001 兵庫県神戸市中央区加納町4-4-17
 ニッセイ三宮ビル16F
 TEL:078-333-5633 FAX:078-333-5681
 〒100-0005 東京都千代田区丸の内1-7-12
 サビアタワー11F
 TEL:03-6270-1833 FAX:03-6270-1859
 従業員数(連結)：1,928名(2018年3月31日現在)
 U R L：http://www.asahiholdings.com/



神戸本社



東京本社

アサヒプリテック株式会社

事 業 内 容：貴金属リサイクルおよび産業廃棄物処理
 代表取締役：中西 広幸
 本 社：〒650-0001 兵庫県神戸市中央区加納町4-4-17
 ニッセイ三宮ビル16F
 TEL:078-333-5600 FAX:078-333-5681
 〒100-0005 東京都千代田区丸の内1-7-12
 サビアタワー11F
 TEL:03-6270-1820 FAX:03-6270-1825
 U R L：http://www.asahipretec.com/

国内拠点

研究所：テクノセンター(神戸)
 工 場：埼玉、長野、尼崎、神戸、テクノセンター、愛媛、北九州、北九州ひびき、福岡
 営業所：札幌、青森、仙台、新潟、北関東、関東、横浜、甲府、長野、静岡、名古屋、
 北陸、阪神、神戸、岡山、広島、四国、北九州、福岡、鹿児島、沖縄

関係会社

ASAHI G&S SDN. BHD.(マレーシア) 上海朝日浦力環境科技有限公司
 韓国アサヒプリテック株式会社 朝日浦力科技股份有限公司(台湾)

アサヒライフ&ヘルス株式会社

事 業 内 容：生活および健康関連機器・設備の製造・販売・施工
 代表取締役：大槻 利幸
 本 社：〒100-0005 東京都千代田区丸の内1-7-12
 サビアタワー11F
 TEL:03-6895-1870 FAX:03-6270-1839
 U R L：http://www.asahilh.com/

関係会社

株式会社フジ医療器 株式会社インターセントラル
 緋永工業株式会社 Fujiiryoki, Inc.(米国)

ジャパンウェイスト株式会社

事 業 内 容：産業廃棄物処理およびその他の環境保全
 代表取締役：奥村 恵一
 本 社：〒100-0005 東京都千代田区丸の内1-7-12
 サビアタワー11F
 TEL:03-6270-1828 FAX:03-6270-1839
 U R L：http://www.japanwaste.co.jp/

関係会社

JWケミテック株式会社 JWガラスリサイクル株式会社
 株式会社太陽化学 日本ケミテックロジテム株式会社
 富士炉材株式会社 株式会社イヨテック
 エコマックス株式会社

アサヒアメリカホールディングス株式会社

事 業 内 容：北米金・銀精錬
 代表取締役：東浦 知哉
 本 社：〒100-0005 東京都千代田区丸の内1-7-12
 サビアタワー11F
 TEL:03-6895-1900 FAX:03-6270-1859

関係会社

Asahi Refining USA Inc.
 Asahi Refining Canada Ltd.

▶ トップメッセージ

第7次中期経営計画の最終年度である2017年度は、営業利益を2度上方修正し138億円と過去最高の業績となりました。グループ傘下の全ての会社と全ての事業単位の業績で黒字を計上しました。その結果、当社が経営効率化の指標としているROE(自己資本利益率)は17.3%となりました。また、この3年間で、IFRS(国際会計基準)の適用、監査等委員会設置会社への移行、コーポレートガバナンス体制の強化など、グローバル経営の基盤を固めました。

第8次中期経営計画のスローガンは「独創性と成長を追求するグローバル企業へ」です。2018年4月から始まる中期経営計画の期間は3か年ですが、創業70年を迎える5年後を見据えた計画と位置付けています。2020年度までに、ITを活用した新しい技術や新しいシステムの開発や新しいビジネスモデルへの挑戦を積極的に行います。5年後の2022年度には、基幹事業である貴金属事業セグメントおよび本年4月に設立したアサヒライフ&ヘルス株式会社が運営するライフ&ヘルス事業セグメントは「世界のアサヒブランド」として、環境保全事業セグメントは「日本のアサヒブランド」として、これからの3年間の様々な挑戦が開花しているでしょう。

当社の事業は10年前と比較すると構成内容が大きく変わっています。事業環境の変化に応じて、撤退したビジネスは10を超え、新たに起こした事業や傘下に収めた事業は20を超えています。過去20年間で20社以上の企業を買収してきましたが、その95%以上の会社を買収前を上回る業績を上げてきました。それを可能にしたのは「変化への対応力」と「事業を再生する経営力」です。

私たちの経営理念と社員の行動指針は「アサヒウェイ」に端的に表現されています。「わたしたちの信条」は、当社グループの事業そのものが2015年に国連で採択された「SDGs(持続可能な開発)」であり、これからも一層「地球のサステナビリティ」に貢献する意思を示しています。「企業として大事にする」ことは、様々なステークホルダーと協調しながら、「無形の資産」を重視する考えを示しています。「モラルの高い社員集団」と「信用の象徴であるブランド力」が、長期的に安定した成長には不可欠です。

「革新と挑戦」の精神で、事業環境の変化を克服しながら成長を続ける「アサヒホールディングスグループ」へのご支援を賜りますようお願い申し上げます。

2018年5月
代表取締役会長(CEO)

手山 謙吾



アサヒウェイ

“この手で守る自然と資源”

アサヒホールディングスグループは、わたしたちの信条、企業として大事にすること、社員として守ること、行動指針などを、グループ社員が共有すべき価値「アサヒウェイ」として定めています。取締役および経営幹部社員は、当社グループの持続的な成長と中長期的な企業価値の向上を目的とした「アサヒウェイ」を率先して実践します。

わたしたちの信条

わたしたちは、
限りある資源を大切にし
地球の環境を保全し
人々の健康をサポートします。

わたしたちが社員として心がけること

革新と挑戦
安全最優先
高い品質の保持
素早い報告(特に悪い情報こそ早く報告)
信頼と絆

わたしたちが企業として大事にすること

ステークホルダーとの協調

株主・顧客・取引先・社員・地域社会・自然環境に配慮し、信頼が得られる活動を実践する。

攻めと守りのバランスがとれたコーポレートガバナンス

意思決定の透明性を確保し
リスクを適切に管理しながら
成長戦略や事業改革を果敢に推進する。

利益なくして成長なし

企業グループ全体の成長と利益を通して
長期的な株主価値の向上を実現する。

信頼されるコーポレートブランド

クリーンな企業グループであると広く認知され
長く信頼されるブランドを維持する。

さまざまなリスクへの対応

職場の日常の安全性の確保や業務事故の防止を徹底し
各種災害への備えを確立する。

社員のモラル向上

社員の仕事と生活全体との調和を重視し
働く環境や労働条件を継続的に向上する。

強い使命感と高い倫理観

社員一人ひとりが仕事に誇りを持ち
幹部社員は強い使命感と高い倫理観を持つ組織とする。

グッド・ピープル・カンパニーの継承

善なる社員を長期に亘って大事にする。
善なる社員とは、利己主義的ではなく
自他の共栄と事業の発展を願う社員である。

アサヒホールディングスグループ 10の規則

- 第一則 いかなる法令や規範にも違反しない
- 第二則 社会通念や自己の良心に反することを行わない
- 第三則 年齢・性別・国籍・人種・宗教などに基づく差別を行わない
- 第四則 業務に関連した場所で政治活動や宗教活動を行わない
- 第五則 お客様に不誠実な対応をしない
- 第六則 取引先の決定において公平な競争や最適な選定を妨げない
- 第七則 業務上知りえた情報を外部に漏洩しない
- 第八則 個人的な利得につながる食事や贈答品を提供しないし受け取らない
- 第九則 個人や自ら所属する組織より全体最適を優先する
- 第十則 現場・現物・現実を重視する

▶ これからのアサヒホールディングス(第8次中期経営計画)

連結業績目標

| | 2018 | 2019 | 2020 | (億円) |
|-------|-------|-------|-------|------|
| 売上収益 | 1,200 | 1,300 | 1,400 | |
| 営業利益 | 140 | 150 | 160 | |
| 営業利益率 | 11.7% | 11.5% | 11.4% | |
| ROE | 14.1% | 13.8% | 13.5% | |

スローガン

独創性と成長を追求するグローバル企業へ

第8次中期経営計画のスタートにあたって

第8次中期経営計画においては、各事業領域における5年後のゴールイメージをしっかりと見据え、収益性を維持しながら中長期的に成長を遂げるための取り組みを推進します。今回の中期経営計画において特に強調している点は、次の3つのキーワードで表されます。

第1のキーワードは「無形資本の充実」です。

なかでも重要なのは人的資本への投資です。当社グループはさまざまな分野から多様な人材を受け入れ育てることで成長してまいりました。その柔軟なプラットフォームを活かしながら、日々刻々と激動する事業環境の変化に対応し、グローバルに活躍できる人材をより多く生み出さなければなりません。そのようなしくみを強化することが成長の持続を支えます。経営基盤の最重要部分は有為な人材群を形成する力であるという考え方に沿って、採用、研修、ローテーションなどを計画的に強化します。

また、知的財産を組織内で生み出すことにも注力します。具体的には、貴金属・環境・ライフ&ヘルスの各セグメントにおいてAI等を駆使した新たな技術の開発に積極的な投資を行います。1998年のテクノセンター設立時より標榜してきた「技術のアサヒ」の伝統を承継します。

第2のキーワードは「業務の自動化」です。

貴金属精錬や産業廃棄物処理の業は、絶えず変種変量への対応を求められるため、自動化が難しい現場を多くかかえます。しかしながら、最新の情報技術の調査・研究に努め、長期的な視点での業務革新につなげるべく、「10年先も最先端のオペレーション」となるような自動化を目指します。生産現場に限らず、営業・輸送・管理などの業務分野においても自動化を進めます。自動化の前段において、ゼロベースで業務を見直し、ムダを取り除き、本来の業務目的とのズレを修正します。結果として、生産性が飛躍的に高まることを期しております。

これらの生産性向上の取り組みは、高齢化や人口減少といった社会的課題に対応する意義を有するとともに、社員のワーク・ライフ・バランス向上にもつながるものと考えております。

第3のキーワードは「ソーシャルインパクト志向」です。

世界的に社会的課題をビジネスの力で解決する試みが広がっています。国連が国際社会の持続可能な発展のために必要な目標SDGsを策定したのがそのきっかけだといわれています。当社はこれまで以上に社会の諸課題に向き合い、SDGs視点での企業活動を通して発展を遂げてまいります。

第8次中期経営計画の定量的および定性的な目標の達成は、当社グループの永続性や企業価値の向上に確実に資するものでありますから、グループ全社一丸となって最大限の努力をしております。アサヒホールディングスグループへの変わらぬご支援を賜りますようお願い申し上げます。

2018年5月
代表取締役社長 東浦 知哉

基本方針

貴金属精錬分野で
世界ナンバーワン企業へ

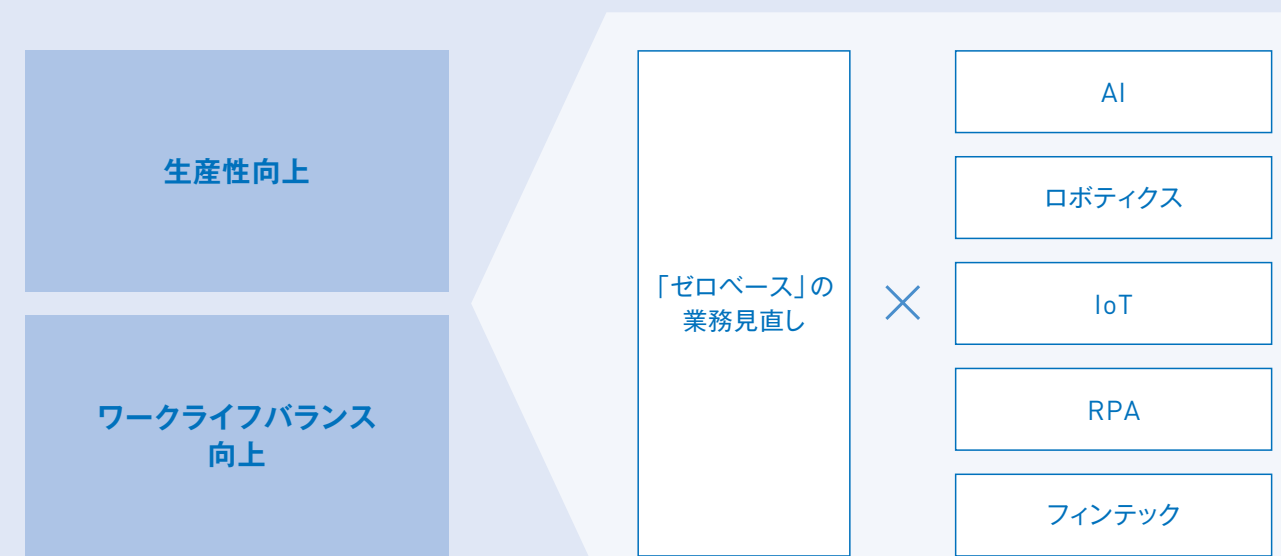
国内環境ビジネスの
リーダー企業へ

健康関連ビジネスの
世界ナンバーワンブランドへ

1. 次代を支える新たな事業基盤の構築



2. 情報処理技術を活かした生産性向上と働き方改革



3. グループ全社員によるアサヒウェイの共有

▶アサヒホールディングスの歩み

| | | | |
|------|--|------|--------------------------|
| 1952 | 大阪市城東区に「朝日化学研究所」を創立 | 1999 | 店頭市場に株式公開 |
| 1964 | 株式会社へ組織変更 | 2000 | 東京証券取引所第二部に株式上場 |
| 1974 | 福岡営業所開設 以降全国各地へ営業所を展開 | 2002 | 東京証券取引所第一部に株式上場 |
| 1978 | 神戸市東灘区に本社社屋を竣工 | 2009 | 持株会社「アサヒホールディングス株式会社」を設立 |
| 1997 | 「アサヒプリテック株式会社」に社名変更 | | |
| 1998 | 本社機能を神戸市中央区に移転 研究開発施設テクノセンターを神戸市西区に開設 | | |

| | |
|------|---|
| 2012 | アサヒウェイを制定 東京証券取引所ESG銘柄に選定される |
| 2015 | 監査等委員会設置会社へ移行 指名委員会と報酬委員会を設置 業績連動型株式報酬制度を導入 |
| 2016 | IFRS（国際会計基準）を適用 |
| 2017 | 新株式発行等による増資を実施 |



第1幕 1952年 創業～

第2幕 1999年 株式公開～

第3幕 2012年 新たな発展へ～

貴金属事業

| | |
|------|-----------------------------------|
| 1952 | 写真定着液からの銀のリサイクル事業を開始 |
| 1975 | 小型電解回収装置「プラタ」を開発 |
| 1982 | デンタル分野からの 貴金属リサイクル事業を開始 |
| 1984 | メッキ分野からの 貴金属リサイクル事業を開始 |
| 1986 | 電子材料・宝飾分野からの 貴金属リサイクル事業を開始 |
| 1986 | 小型電解金回収装置 「ジバング」を開発 |
| 1994 | ASAHI G&S SDN. BHD.を 設立（マレーシア） |
| 1998 | 歯科用合金製造を開始 |



| | |
|------|---------------------------------|
| 2003 | 上海朝日浦力環境科技有限公司を設立 自動車触媒事業を開始 |
| 2006 | 韓国アサヒプリテック（株）を設立 |
| 2011 | Eスクラップ事業を開始 精密洗浄事業を開始 |



環境保全事業

| | |
|------|----------------------------------|
| 1972 | 写真廃液の無害化処理施設を 神戸工場に設置 |
| 1975 | 神戸市の産業廃棄物処理業許可を取得 （写真廃液無害化処理） |
| 1978 | 環境計量証明事業所の登録 |
| 1990 | 写真廃液以外の 環境保全事業を開始 |



| | |
|------|---|
| 2004 | 日本ケミテック（株）がグループに加わる |
| 2006 | （株）太陽化学がグループに加わる |
| 2007 | アサヒプリテック北九州事業所を設置 |
| 2008 | ジャパンウェイスト（株）を設立 富士炉材（株）がグループに加わる |
| 2009 | JWガラスリサイクル（株）が グループに加わる |
| 2010 | ジャパンウェイスト横浜事業所を設置 エコマックス（株）がグループに加わる |

| | |
|------|---|
| 2013 | 朝日浦力科技股份有限公司を設立（台湾） |
| 2015 | 英Johnson Matthey社から 北米（米国・カナダ）の金・銀精錬事業を買収し、 Asahi Refining USA Inc.と Asahi Refining Canada Ltd. を設立 |

| | | |
|------|-------------------------------------|------------------------------|
| 2017 | 日本ケミテックと エコマックスを ジャパンウェイストに統合 | グループ企業 の地域拠点を 統合（10拠点） |
|------|-------------------------------------|------------------------------|

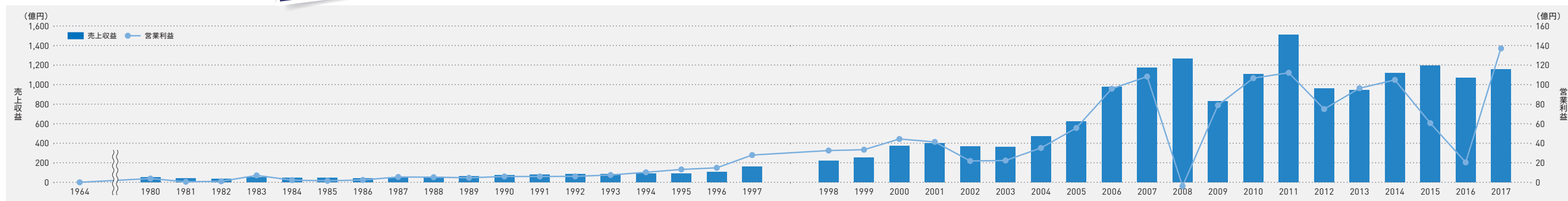
ライフ＆ヘルス事業

| | |
|------|--|
| 2012 | （株）インターセントラル がグループに加わる |
| 2014 | 紘永工業（株）がグループに加わる （株）フジ医療器がグループに加わる ライフ＆ヘルス事業を新たなセグメントとする |
| 2018 | アサヒライフ＆ヘルス（株）を設立 Fujiiryoki, Inc.（フジ医療器の米国子会社） を設立 |

歴史の中で育んだアサヒの強み

- ステークホルダーとの良好な関係
- 信頼されるアサヒブランド
- グローバルに広がるネットワーク
- 変化への対応力
- 事業を再生する経営力
- 業界をリードする独自の技術
- モラルの高い社員集団
- 健全な財務体質

業績推移



▶アサヒホールディングスの価値創造

3つの事業領域

わたしたちは、限りある資源を大切に、地球の環境を保全し、人々の健康をサポートします。



価値創造を支える8つのファクター

会社の「革新と挑戦」の歴史の中で育んだ強み

変化への対応力

事業環境の変化を敏感に察知し、柔軟な発想と果敢な行動力で、創業以来、未知の事業分野にチャレンジしてきました。ライフサイクルが衰退期を迎えた事業分野からは素早く撤退し、新たな事業分野では独創性のあるビジネスモデルを築いて、成長を維持し続けています。

業界をリードする「独自の技術」

高度な分析力と高い効率で貴金属を回収する技術、さまざまな産業廃棄物を適正に処理する技術、顧客のニーズを的確に捉えて商品開発を進める技術を誇ります。不断の研究開発により、各事業分野で“独自の技術”を磨き続けています。

モラルの高い社員集団

全社共通の価値観である“アサヒウェイ”を共有し“信頼と絆”を大切に、“革新と挑戦”のマインドに満ちた社員が成長を担ってきました。多様な人材を受け入れ、社員の健康・安全に最大限配慮し、働く環境を整える等積極的に人材に投資し、モラルの高い社員集団を形成し続けています。

ステークホルダーとの良好な関係

ステークホルダーとの対話を大切にしています。投資家との対話を積極的に行い、顧客や取引先の声に耳を傾け、ガバナンスの強化、商品・サービスの開発に活かしています。社員はもとより地域との信頼関係を大切に、長期的な企業価値の向上に取り組んでいます。

事業を再生する経営力

過去20年間で、20社以上の会社をM&Aでグループに取り込み、経営改善を進めてきました。ほとんどすべての会社がグループ入りする前よりも業績を伸ばしています。事業環境に合った柔軟な経営力によって、日本国内外の関係会社での業績向上を進めています。

信頼されるアサヒブランド

当社グループの金・銀・パラジウム・プラチナはグッド・デリバリー・パーとしての認定を受け、確かな品質が世界で高く評価されています。すべての事業において、クオリティの高い製品とサービスを提供し続けることで、信頼されるアサヒブランドを築いてまいります。

グローバルに広がるネットワーク

1994年マレーシアにAG&Sを設立して以降、中国・韓国・台湾に貴金属リサイクルの拠点として、アジア各地に進出しました。2015年には北米の精錬事業をM&Aにより取得し、鉱山由来の精錬事業に進出したことにより、対象顧客は北米をはじめ世界各国に広がっています。

健全な財務体質

M&Aや積極的な設備投資に機動的に対応できるよう、財務の健全性を確保しながら成長してきました。1999年に店頭公開、2002年に東証1部に上場、2017年に公募増資を行い、資本の充実をはかり、未来の成長を支える財務体質を整えています。

「この手で守る自然と資源」



当社グループにとっての価値創造とは、

事業の成長と同時に社会的課題の解決に貢献することです。

わたしたちのコアミッションは「この手で守る自然と資源」であり、1952年の創業以来、資源のリサイクルと環境保全に取り組んできました。わたしたちが続けてきた事業は、社会の持続可能性とつながるものでした。

これからも事業を通じて社会的課題の解決に取り組み続けます。

当社グループのSDGs貢献

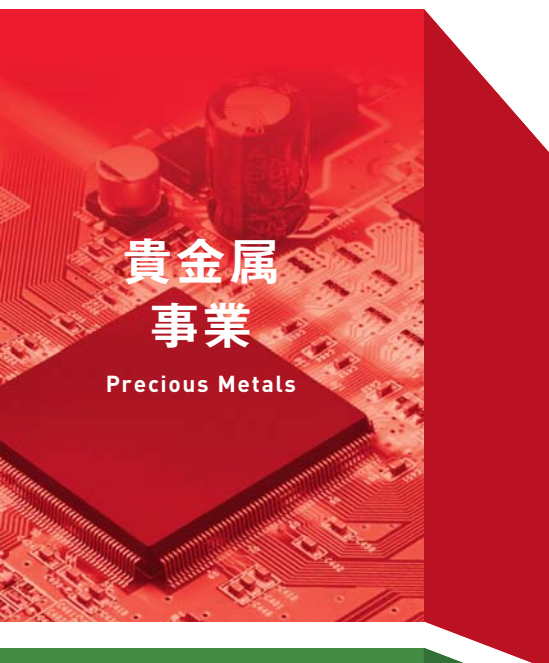
SDGs (Sustainable Development Goals、持続可能な開発目標)とは、2015年に国連で採択された経済・社会・環境をめぐる広範囲な課題への取り組みで、企業を含む社会全体で取り組むことが求められています。当社グループでは、SDGsで定められた17のゴールの中から事業を通じて以下のゴール達成に取り組めます。



今後も全グループ社員がSDGs達成に向けた活動を進めて、社会的課題の解決に取り組んでまいります。

▶3つの事業領域

〈わたしたちは、限りある資源を大切にし、地球の環境を保全し、人々の健康をサポートします。〉



貴金属
事業

Precious Metals

価値創造のプラットフォーム

貴金属
リサイクル原料
精錬原料

- ・卓越した貴金属精錬技術
 - ・独自の革新的技術を生み出す技術開発
 - ・高効率を徹底する生産体制
 - ・グローバルな技術連携
- » P.12~17

お客さま・パートナー

- 電子部品メーカー
- 歯科医院・技工所
- 宝飾品製造メーカー
- 触媒メーカー
- 自動車解体業
- 鉱山会社

製品・サービス

貴金属製品

現代のモノづくりに欠かせない貴金属をリサイクルすることで、資源の有効活用と産業の発展に貢献しています。



SDGs貢献



環境保全
事業

Environmental Preservation

産業廃棄物

(廃試薬、廃油、
汚泥、ガラス、
廃木材他)

- ・全国をカバーするライセンス
 - ・高度で幅広い廃棄物処理技術
 - ・グループネットワークを活かした提案力
- » P.18~21

- 官公庁
- 教育機関
- 医療機関
- 各種メーカー
- 研究所

産業廃棄物の
適正処理・リサイクル

多種多様な廃棄物の適正処理・リサイクルを行うことで、循環型社会の実現に貢献しています。



ライフ&ヘルス
事業

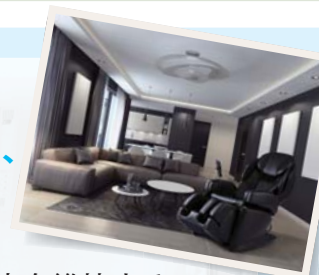
Life and Health

- ・顧客ニーズに応える商品開発力
 - ・機能性と安全性を両立する設計技術
 - ・快適空間を創る現場力
- » P.22~25

- 個人
- 健康関連施設
- オフィスビル
- 建設業
- 設計事務所

各種健康機器、
空調設備、
防災設備

快適な生活と健康を維持する機器・設備を提供することで、健康志向の高まりなど社会のニーズに応えています。



事業内容

わたしたちは、さまざまな分野から発生する貴金属含有スクラップを回収し、リサイクルしています。金・銀・パラジウム・プラチナなどを、現代のモノづくりに欠かせない貴金属製品として再生することにより、資源の有効活用と産業の発展に貢献しています。



強み

01

日本国内およびアジアでは、それぞれの産業分野から排出される貴金属含有スクラップを回収し、特性に合わせた処理技術を保有する各工場でリサイクルを行っています。また、北米では世界の鉱山会社からの入荷物をその品位に合わせた最適な工程で精錬しています。グループの幅広い技術力により、あらゆる貴金属の取扱いを可能にしています。

02

日本全国をカバーするきめ細やかな営業ネットワークを実現し、貴金属含有スクラップの回収を行っています。また、長年にわたり蓄積されたノウハウにより、それぞれの産業分野に精通した担当者が、お客さまのニーズを的確に捉えた提案型営業を日々行っています。

03

当社グループの貴金属地金製品は、LBMA、LPPMでグッド・デリバリー・バーの認定を取得している他、東京商品取引所の受渡供用品としてブランド認証も受けており、国内外で広く流通しています。

廃電子基板・工程端材の貴金属をリサイクル

金／銀／パラジウム



Eスクラップ

電子・半導体産業では、パソコン・携帯電話などに使用される電子部品やプリント基板の製造工程などで、貴金属やレアメタルが使用されます。当社はさまざまな工程で排出される貴金属やレアメタルを卓越した技術で回収しリサイクルしています。

自動車触媒の貴金属やレアメタルをリサイクル

パラジウム／プラチナ／ロジウム



触媒

大気汚染防止法、自動車分野におけるNOx・PM法など、排ガスに対する環境規制に従い、自動車触媒としてプラチナ・パラジウム・ロジウムの貴金属が使用されています。当社は独自の技術により、自動車触媒、化学触媒などからの貴金属やレアメタルのリサイクルに取り組んでいます。

半導体装置部品の貴金属剥離と精密洗浄を実施

金／銀／パラジウム／プラチナ



精密洗浄

電子部品・半導体プロセスで使用されている真空蒸着装置やスパッタリング装置の部品や貴金属含有屑をお客さまからお預かりし、貴金属リサイクルと精密洗浄の事業を展開しています。

歯科業界における資源循環サイクルを実現

金／銀／パラジウム／プラチナ



デンタル

歯科医院や歯科技工所で使用される貴金属製品は、金銀パラジウム合金が主流ですが、種類により貴金属含有率はさまざまです。それらを回収・分析・報告まで当社独自のシステムで一元管理しており、歯科業界における資源循環サイクルを実現しています。

独自の回収技術により高い回収率を常に維持

金／銀／パラジウム



表面処理

表面処理分野では、メッキ液等に含まれる貴金属を中心としたリサイクル事業に取り組んできました。金・銀・パラジウムなどの貴金属回収に加え、レアメタルなどの再資源化や水処理・再使用など環境に配慮した回収技術を併せて提供します。

宝飾品製造団体からの業務委託も受注

金／銀／パラジウム／プラチナ



宝飾

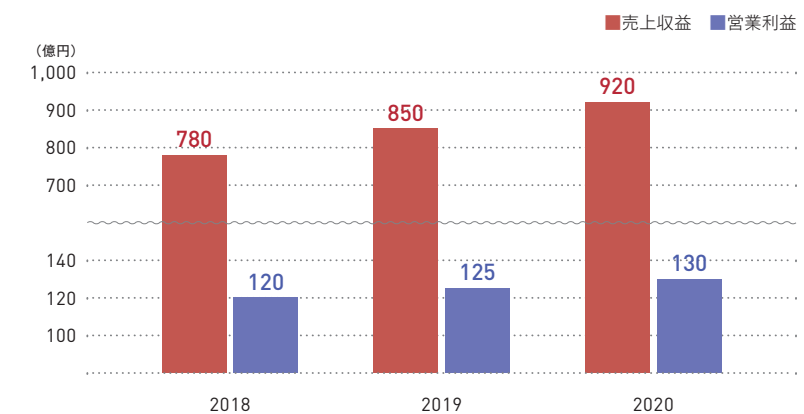
高度な分析・貴金属精製技術に基づき、流通過程における貴金属ジュエリーのリサイクルおよび製造過程で発生する各種分析回収品に対応しています。また、宝飾品製造団体から「貴金属スクラップの回収・分析」の業務委託を受けており、当社の長年の実績に対してお客さまから厚い信頼をいただいています。

貴金属精錬分野で世界ナンバーワン企業へ

[第8次中期経営計画]

(億円)

| | 2018年度 | 2019年度 | 2020年度 |
|-------|--------|--------|--------|
| 売上収益 | 780 | 850 | 920 |
| 営業利益 | 120 | 125 | 130 |
| 営業利益率 | 15.4% | 14.7% | 14.1% |



貴金属の回収・リサイクルのフロー

回収先の事業フィールドにより異なる性状や混合物をともなったりリサイクル原料に対して、最も効率的な回収を可能とする貴金属の回収専用工場を日本ならびにアジアで展開しています。また、貴金属・レアメタルの種類に応じた最適な方法で効率よく精製する設備をフル活用し、お客さまのニーズに的確に応えています。



製品クオリティ

確かな品質が国内外で高い評価を受けています。

アサヒプリテックは一般社団法人日本金地金流通協会の正会員で、金・銀・プラチナ・パラジウムの地金は、東京商品取引所の受渡供用品としてブランド認証を受けています。さらに、金・銀はLBMA^{※1}、プラチナ・パラジウムはLPPM^{※2}のグッド・デリバリー・バーとして認定を受けており、確かな品質が世界のマーケットで高く評価されています。また、Asahi Refiningの金・銀もLBMAのグッド・デリバリー・バーとして認定を受けております。



※1 LBMA: The London Bullion Market Association
※2 LPPM: London Platinum & Palladium Market

研究開発体制



RESEARCH & DEVELOPMENT

独自の研究開発を追求する「テクノセンター」

「貴金属のリサイクル」と「産業廃棄物の無害化・再資源化」に向けて、独自の研究開発と分析技術開発を進めています。その中枢が神戸ハイテクパーク内にある「テクノセンター」です。品質向上と技術革新を通じて社会にさらなる貢献をしていきます。

研究開発

常にニーズを先取りし、新技術の開発と蓄積された要素技術の応用を通じて、新製品、新事業の創生に努めています。

- ① 貴金属・レアメタルの分離・精製技術
- ② 環境保全・再資源化技術
- ③ 貴金属成形加工技術

分析

当社グループ分析機能の中枢として、最新分析機器と高度な分析技術で多岐にわたる企業活動を支援しています。また、お客さまの信頼を確実に保持し、高める役割を担っています。

- ① 新規分析技術の開発
- ② 各工場・営業所分析グループの技術指導
- ③ 貴金属製品や歯科用合金の品質分析
- ④ 工場排水などの環境分析
- ⑤ 環境計量証明事業

エンジニアリング

最先端技術を駆使し、各分野のエキスパートが、国内拠点・海外拠点設備の設計・製作・施工・メンテナンスを行い、設備の安全かつ安定的な操業の支援をしています。

- ① 設備および建屋の設計・製作・施工・管理
- ② 既存設備の維持管理・メンテナンス
- ③ 顧客先への貴金属回収設備設置・維持管理
- ④ 設備のIoT・ロボティクス化支援



主要な開発テーマ

[精製技術の開発]

リサイクル原料処理に特に有効な湿式貴金属精製技術に加え、北米で実施しているプライマリー原料処理に有効な乾式貴金属精製技術の開発を行っています。湿式・乾式の両精製技術を進化・融合させることによって、あらゆる原料に対応できる効果的な貴金属精製技術を確立していきます。

[剥離技術の開発]

電子部品や半導体の製造で使用する部材・治具などの表面に付着した貴金属を回収するために、部材・治具を損傷することなく、安全かつ確実に貴金属を化学剥離および物理剥離する技術を開発しています。

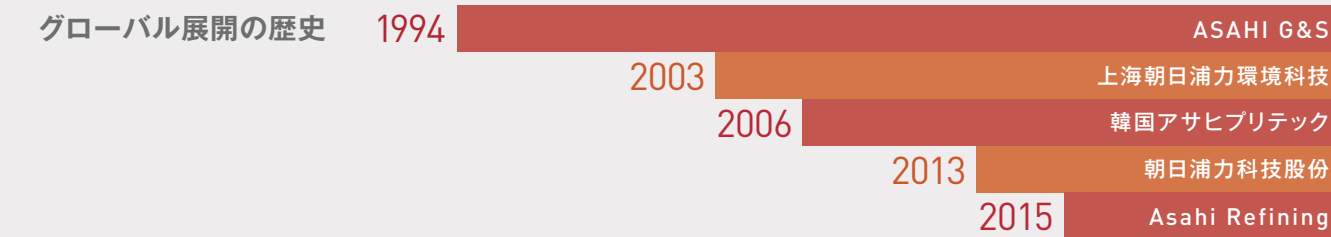
[分析技術の開発]

お客さまとの取引を正確かつ迅速に行うことを目的として、X線や誘導結合プラズマ発光分析(ICP)を用いた分析技術を開発しています。北米Asahi Refiningも含めた貴金属分析の高度化を図っています。

グローバル展開

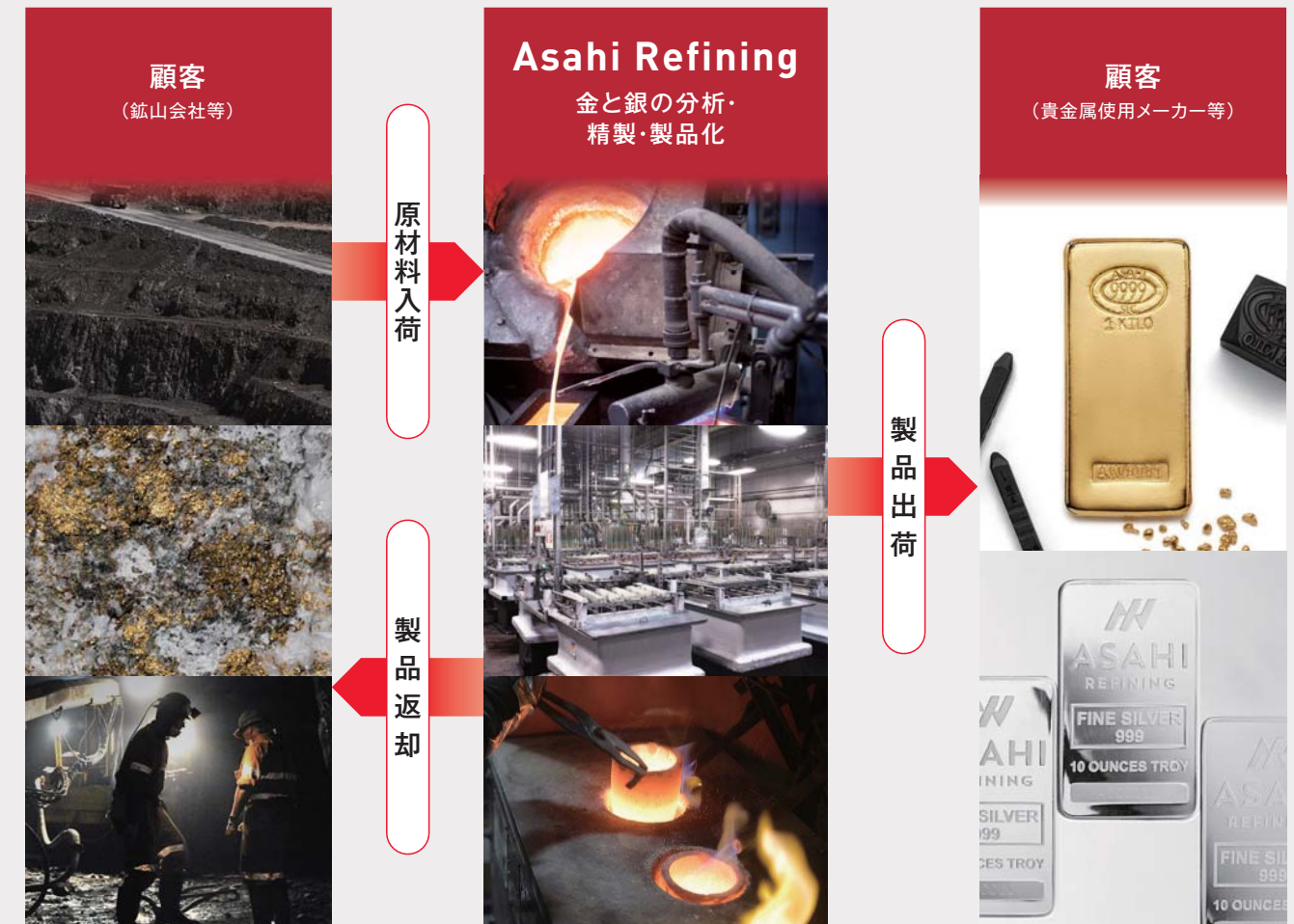
わたしたちは、貴金属事業において、1994年からアジア拠点展開をすすめています。アジア地域において、エレクトロニクス業界を中心に産業分野からの貴金属リサイクル事業を、日本で培ったベース技術と現地の市場特性にあわせたビジネスモデルにより展開し、事業を拡大してきました。

さらに、2015年3月に北米精錬事業 (Asahi Refining) がグループに参加したことで、事業エリアを北米を中心に世界各国に拡大するとともに、それぞれの市場特性にあわせたビジネスモデルにより、事業を拡大しています。



北米精錬事業

Asahi Refiningでは、米国およびカナダにおいて鉱山由来の金・銀の精錬事業を営んでおり、精錬シェアは世界でもトップクラスを誇っています。



グループ間技術交流の展開

日本の洗練された技術と北米の金・銀精錬事業で培われた技術の間で相互移転・活用を積極的に展開しています。グループ内での技術融合・シナジーの最大化により、品質・コスト・納期においてお客様のニーズに応じていきます。

コンフリクトメタル (紛争鉱物) への対応

コンフリクトメタルとはコンゴ民主共和国などアフリカ10か国で産出されるスズや金、タンタル、タングステンを指します。これらは紛争、人身売買などの非人道的行為やテロ活動、マネーロンダリングなどの不正行為の活動資金源になりかねないものとして懸念されています。当社グループが生産する金製品を世界中のお客様に安心してご利用いただくために、コンフリクトメタルの不買・不使用に対してOECDガイドライン・LBMAガイドライン等に準拠した管理体制を構築し、アサヒプリテック・Asahi Refiningにおいて、世界的な第三者機関による監査認証を取得しています。

コンフリクトメタル (紛争鉱物) の取扱いに関する基本方針

<http://www.asahipretec.com/conflictmetal/index.html>

事業内容

アサヒブリテック、ジャパンウェイストおよび傘下のグループ各社が、長年それぞれの分野で培ってきた独自技術の提供を通じて、各種廃棄物の無害化・適正処理を行うことで、お客さまの多様なニーズにお応えしています。廃棄物処理のエキスパートとして持続可能な循環型社会の実現に取り組むことで、地球環境問題の解決に貢献しています。

事業領域

| | | |
|-----------|---------------------|-------------------|
| 官公庁 | 教育機関 | 病院・ 医院など |
| 研究機関 | ガラス・ サッシ メーカー | 化学薬品 メーカー |
| 分析 事務所 | プラント メーカー | その他 各種 メーカー |

強み

01

グループ会社間の連携により、さまざまな品目の産業廃棄物の処理が可能です。特に、処理困難な特別管理産業廃棄物の取扱いについて、最適なソリューションを提供しています。

02

産業廃棄物処理に関する高度なノウハウや情報提供により、企業の廃棄物処理に関するリスク軽減のコンサルティングで高い評価を得ています。

03

全国をカバーするきめ細やかなネットワークにより、あらゆる地域でクオリティの高い「適正処理」を実現します。日本全国47都道府県および20政令市のすべてで、産業廃棄物ならびに特別管理産業廃棄物の収集運搬業の許可を取得しています。

廃試薬



大学等の教育機関や研究機関から、廃棄する薬品を回収しています。薬品は1本ずつ、回収容器が適正であることを確認しながら確実に梱包します。また、内容不明物は内容分析を行い処理方法を確定させてから適正処理を行います。処理の難しい少量多品種な廃棄物も、法令に則り確実に適正処理を行います。

廃油・汚泥



さまざまな廃油や廃液を分析結果をもとに最適な配合で混合、成分調整を行い、代替燃料としてリサイクルしています。また、汚泥や燃え殻などは成分や水分を調整し混練することでセメント原料としてリサイクルしています。さらに受け入れ時と出荷時には徹底した分析を行い、マテリアルリサイクル品としての品質維持管理にも努めています。

ガラス



ガラスメーカー、サッシメーカー、自治体などから板ガラス、ガラス瓶などを回収しています。回収した板ガラスくず、ガラス瓶などは自社工場で選別破碎後、高品位のガラスカレットとして再生・販売しています。ガラスリサイクルを通じて、鉱物資源の枯渇防止や環境負荷低減を図っています。

廃木材



建築物の解体現場などで発生する廃木材を破碎し、破碎後の木材チップをバイオマス発電燃料やパーティクルボード材料としてリサイクルしています。

耐火レンガ



ガラス製造炉の窯解体およびごみ焼却炉などの定期修繕工事で発生する廃耐火レンガは、精緻な分別を行い、耐火レンガや路盤材としての再利用を図るなどリサイクルを意識した処理を行っています。

有機性廃液・汚泥



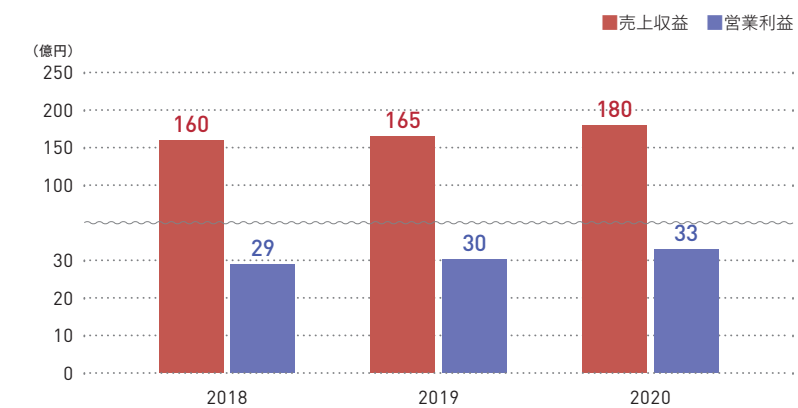
食品製造工場、レストランチェーンなどから排出される有機性廃液は、中和・脱水を行います。ろ液は微生物処理で排除基準値未滿まで浄化し、下水道放流しています。汚泥は、発酵・熟成プラントで堆肥化することにより農家の方々に有機リサイクル肥料として有効利用いただいています。

国内環境ビジネスのリーダー企業へ

[第8次中期経営計画]

(億円)

| | 2018年度 | 2019年度 | 2020年度 |
|-------|--------|--------|--------|
| 売上収益 | 160 | 165 | 180 |
| 営業利益 | 29 | 30 | 33 |
| 営業利益率 | 18.1% | 18.2% | 18.3% |



SDGs貢献



幅広い分野で高付加価値サービスの提供に努め各分野に特化した処理技術で、多様化・高度化するお客さまのニーズに迅速にお応えします。

産業廃棄物・特別管理産業廃棄物のほとんどの品目について収集運搬および中間処分の許可を取得し、適正かつ迅速に処理できる体制を構築しています。さらに、産業廃棄物の卓越した無害化処理技術によって、環境分野における最適なソリューションを提供します。

グループ各社のネットワーク



廃棄物リサイクルの工程

収集運搬 → 中間処理

- 産業廃棄物
廃酸、廃アルカリ、廃油、汚泥、
廃プラスチックなど18種類
- 特別管理産業廃棄物
特定有害物質を含む廃酸、廃ア
ルカリ、廃油、汚泥、感染性廃
棄物など17種類
- 中和
- 凝集沈殿
- 濃縮
- 脱水
- シアン分解
- 油水分離
- 焼却
- 中和・混合
- 乾燥
- 選別・圧縮・破碎
- 混練
- コンクリート固型化



リ
サイ
クル

埋
立

卓越した技術でさまざまな処理を実現

特定有害廃酸・廃アルカリ・廃試薬処理

工場や事業所から排出される廃酸、廃アルカリや大学・民間企業の実験室や研究所で不要になった廃試薬は適正処理が必要です。これらの多品種にわたる廃棄物は、徹底した安全管理体制のもと当社グループが長年培ってきた技術を駆使し、各工場専用ラインで無害化処理をしています。また、当社グループの分類基準に沿って容器に分別保管し、収集運搬および保管時の異常反応発生防止措置を行っています。廃試薬瓶のラベルが剥れ、内容物が不明な廃試薬についても当社で分析し、適正処理のサポートを行います。

特別管理産業廃棄物への対応も可能な安全・衛生的な焼却処理

焼却処理設備は各機器の自動化による集中コントロールで省力化が図られています。また、医療系廃棄物は、専用の自動供給ラインで炉内に投入され、安全で衛生的に処理されます。固形状のものから液状の産業廃棄物まで、多種多様な廃棄物を効率よく確実に処理します。

廃酸・廃アルカリ・汚泥の高速微生物処理

工場や事業所からの廃液については有害物質を取り除いた後、窒素・リンを含む場合でも、微生物処理等の独自技術によって排除基準値未満まで浄化し、下水道放流しています。特にエネルギー消費や二酸化炭素排出量は、他の処理方式との比較で低くなっています。また、廃液の中和・脱水後の汚泥は、非鉄金属や鉄鋼の原料として再利用されています。一部リサイクルできない汚泥は、埋立処分されます。

有害物のコンクリート固型化処理

焼却処理施設などから発生する燃え殻、煤塵、汚泥や有害物（ヒ素・鉛・クロム・セレン等の重金属類、ダイオキシン類等）を含む廃棄物の中にはリサイクルに適さないものがあります。このような廃棄物から有害物が溶出しないようにコンクリート固型化（不溶化）処理をしています。強い酸性条件下でも有害物を自然界に溶出させない独自の設備と技術を有しています。

当社グループの取得ライセンス（2018年3月31日現在）

| | |
|------------------|--|
| 産業廃棄物収集運搬業許可 | すべての都道府県・政令市 |
| 産業廃棄物処分業許可 | 13都道府県9政令市 |
| 特別管理産業廃棄物収集運搬業許可 | すべての都道府県・政令市 |
| 特別管理産業廃棄物処分業許可 | 11都道府県8政令市 |
| 優良産廃処理業者認定* | アサヒプリテック：すべての都道府県・政令市 ジャパンウェイスト：28都道府県3政令市 |

*2011年4月に廃棄物処理法が改正され、優良産廃処理業者認定制度が創設されました。事業の実施に関する能力や実績など、より厳しい基準に適合する業者を都道府県・政令都市が認定する制度です。グループ全体で、優良産廃業者認定の取得を進め、お客さまが安心して委託できる体制を整えています。

New!
新工場が
竣工!



(株)太陽化学谷山臨海工場が2018年4月に竣工しました。環境に配慮し、自動化を多用した新しい焼却炉は、南九州での存在感を一層高めました。

事業内容

アサヒライフ＆ヘルス傘下の3社のネットワークにより、快適生活と健康を維持する機器および設備等を提供いたします。事業を通じて人々の健康志向の高まり・高齢化社会に対する社会のニーズに応えます。



強み

01

お客さまの幅広くきめ細やかなニーズを把握し、必要とされるクオリティを実現する商品開発力こそが事業の礎と考えています。研究開発・製造・営業などの各部門のプロフェッショナルが理解し、緊密な連携を図りながら研究開発を重ねています。

02

外部の研究機関やビジネスパートナーとの信頼関係で結ばれたネットワークによって、人々の健康を促進し、より高度な快適さを実現し、地球環境にやさしい、付加価値の高い製品・サービスを実現します。

03

製品を提供するだけでなく、アフターケア・メンテナンスによって、継続的にお客さまに安心・安全を提供します。

株式会社フジ医療器

2014年7月グループ加入

本社：大阪府大阪市

工場：大阪府南河内郡

営業拠点：北海道、岩手県、宮城県、栃木県、群馬県、埼玉県、東京都、神奈川県、長野県、静岡県、愛知県、京都府、大阪府、岡山県、広島県、香川県、愛媛県、福岡県、熊本県、鹿児島県、沖縄県

事業内容：マッサージ器、補聴器、家庭用電気治療器、電解水素水生成器等の健康機器の製造・販売



フジ医療器が1954年に世界で初めて量産化したマッサージチェア第1号が2014年8月に「機械遺産」に認定されました。

株式会社インターセントラル

2012年7月グループ加入

本社：岩手県滝沢市

工場：岩手県滝沢市

研究所：岩手県滝沢市

営業拠点：北海道、岩手県、秋田県、宮城県、東京都、愛知県、大阪府、福岡県

事業内容：放射冷暖房システムの設計・施工、電気暖房器製造・販売



紘永工業株式会社

2014年3月グループ加入

本社：神奈川県横浜市

営業拠点：東京都千代田区

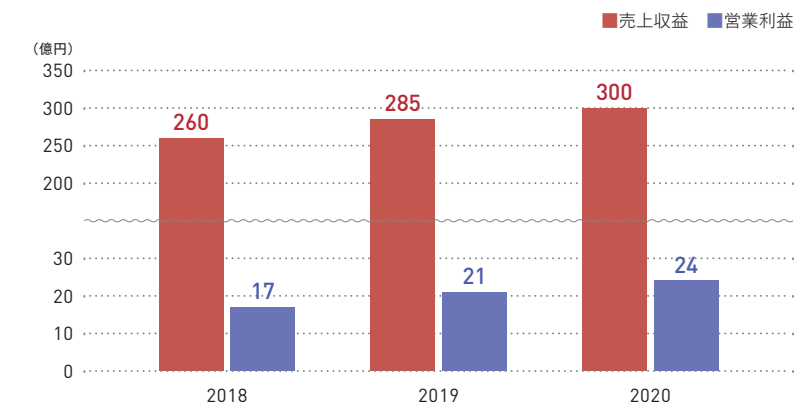
事業内容：防災・空調・衛生設備の設計・施工・保守



健康関連ビジネスの世界ナンバーワンブランドへ

[第8次中期経営計画]

| | 2018年度 | 2019年度 | 2020年度 |
|-------|--------|--------|--------|
| 売上収益 | 260 | 285 | 300 |
| 営業利益 | 17 | 21 | 24 |
| 営業利益率 | 6.5% | 7.4% | 8.0% |



これまで培ってきた技術を生かし、社会のニーズに応えた商品を展開しています。

フジ医療器

[強み]

- マッサージチェア業界トップクラスのシェア
- 全国を網羅する多彩な販売網

グローバルサイトを公開

フジ医療器は、海外での販売強化戦略の一環として2017年6月にグローバルサイトを公開しました。日本発祥のマッサージチェアと電解水素水生成器を世界に広げるために、英語、繁体中文、韓国語、日本語の4か国語で情報配信(商品情報、サポート情報、企業情報、グローバルネットワーク)しています。



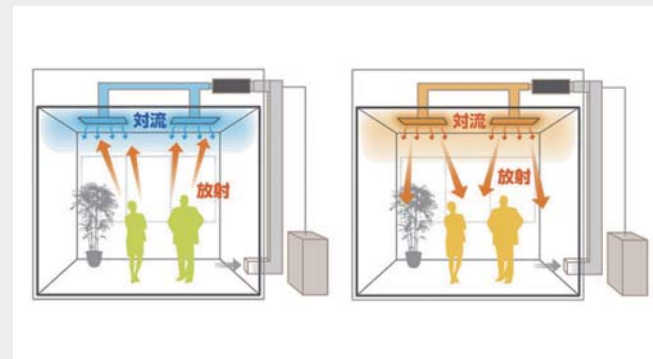
インターセントラル

[強み]

- 快適な生活作りに貢献する機器等の製品開発力
- 放射空調・特定用途ヒーターを取扱っている数少ないメーカー

放射冷暖房システム

放射効果により実際の設定温度よりも体感温度が冷房では低く、暖房では高く感じるため、少ないエネルギーで快適な室温を作り出すことができる、人にも環境にも優しいシステムです。



紘永工業

[強み]

- 高度な設計技術と深い現場経験
- 広汎なエンジニアリングノウハウを擁するアドバンテージ
- あらゆるテーマに応じたベストプランをスピーディーに提案

主な防災工事の施事例



杉並清掃工場



慶應義塾大学病院新病院棟(1号館)



パークコート赤坂榎町ザタワー

各社の新製品

フジ医療器最高峰モデルの海外向け新製品 サイバーリラクスマッサージチェア JP-1100

インテリアとマッチする高級感のあるデザインと全身を心地よくもみほぐす最先端の高機能マッサージ技術を搭載した、made in Japanのマッサージチェアです。



マシュアシリーズ第2弾 エアーマッサージャーF AM-40

女性向けブランドのマシュアシリーズから第2弾商品として、ひざ下全体を包み込むようにマッサージを行う「エアーマッサージャーF AM-40」を発売しました。心地良さを追求し、足先を優しく温める「足先ホットヒーター」や、エアー給排気を小刻みに繰り返しリズムカルに脚をもみほぐす「パルスコース」を新たに搭載しています。

グッドデザイン賞受賞

フジ医療器

「最高峰モデルとして的高级感と美しさ」をコンセプトにデザインされたフジ医療器の「サイバーリラクスマッサージチェア AS-1100」と「リラクソソリューション マッサージチェア SKS-6900」の2機種がグッドデザイン賞を受賞いたしました。高級感と高い機能性に加え、リビングや寝室において周囲の家具の質感ともマッチする違和感のない佇まいが評価されました。



GOOD DESIGN AWARD
2017年度受賞

インターセントラル

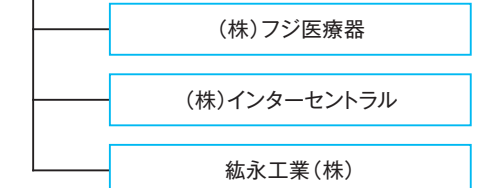
「空間になじむ心地よいシンプルさ。長く愛用できる暖房機器。」をコンセプトにデザインされたインターセントラルの「マイヒートセラフィMHS-900A」および新発売の「マイヒートセラフィMHS-700」の2機種が受賞となりました。無駄なく飽きのこない落ち着いたシンプルさと、安全性にも配慮したデザインが評価されました。



アサヒライフ&ヘルス株式会社設立

2018年4月2日付けでライフ&ヘルスセグメント事業を統括し、健康寿命の促進を通して社会貢献を図る目的で、アサヒライフ&ヘルス(株)を設立いたしました。ジャバンウェイスト(株)の傘下にあった(株)フジ医療器、(株)インターセントラル、紘永工業(株)の全株式は同社に譲渡されました。

アサヒライフ&ヘルス(株)



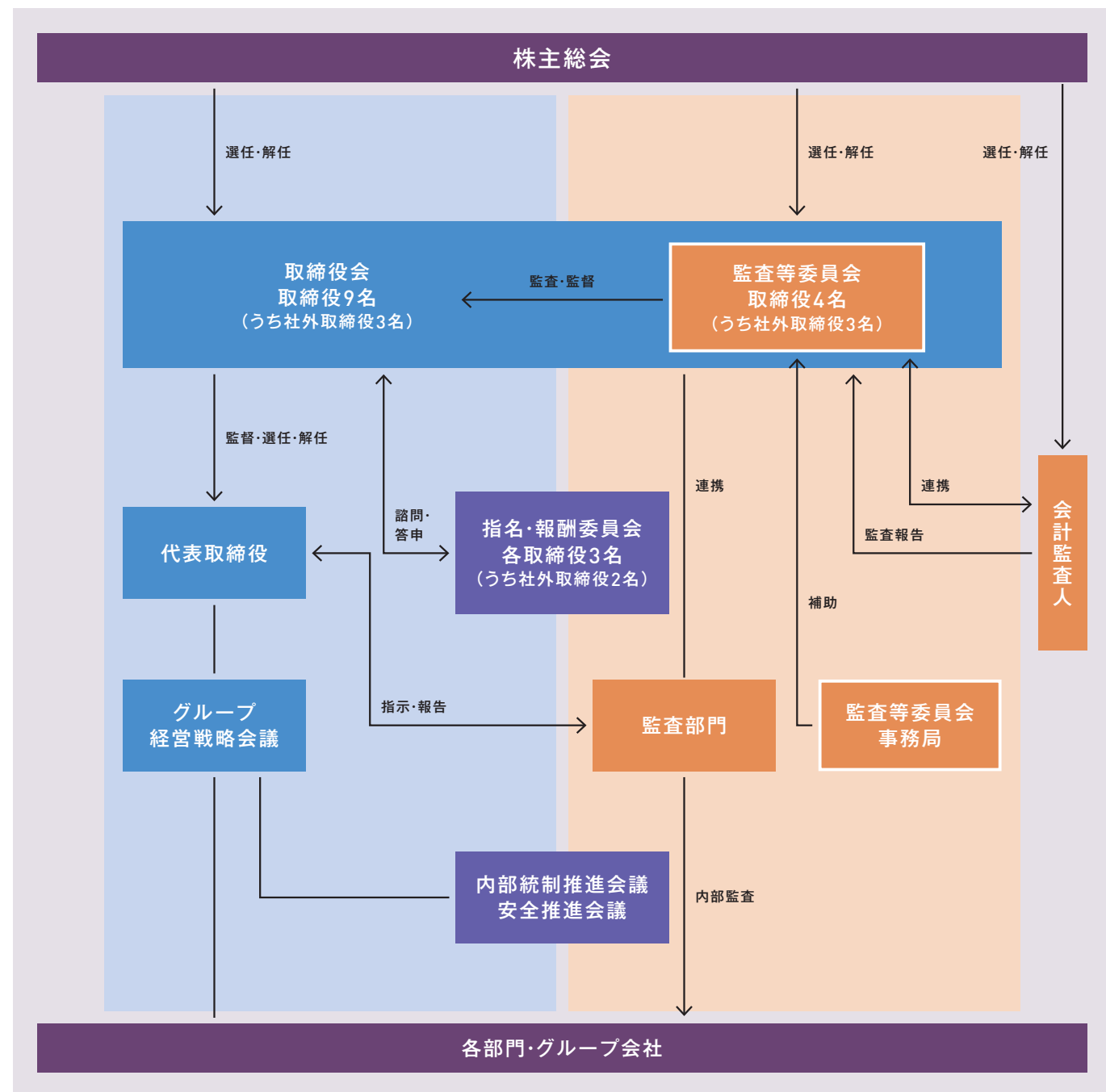
» コーポレート・ガバナンス

コーポレート・ガバナンスについての基本的な考え

コーポレート・ガバナンスを確立し有効に機能させることは、企業の社会的責任であるとともに、経営の効率性や透明性を高め持続的な企業価値向上に資するものです。

当社グループは、株主・取引先・社員・地域社会等さまざまなステークホルダーからの信頼に応えるコーポレート・ガバナンスを構築します。上場企業としての社会的使命と責任を果たすとともに、コンプライアンスを重視しつつ経営環境の変化に迅速に対応できる「コーポレート・ガバナンス体制」を整備し、持続的な企業価値の向上を目指しています。

コーポレート・ガバナンス体制



機関設計

取締役会

当社グループの取締役会は、各事業部門や技術部門や管理部門の分野に精通した業務執行取締役と企業経営に必要な多様な専門性を有する社外取締役で構成しています。取締役会において実効性のある議論を活発に行うため、独立社外取締役3名を含む取締役9名で構成し、当社グループの経営戦略や経営計画等の重要テーマについて、全取締役が自由闊達な意見交換を行っています。

(社外取締役)

社外取締役は、「社外取締役の独立性に関する基準」を定め、経歴や当社グループとの関係を踏まえて、当社経営陣から独立した立場で職務を遂行できる独立社外取締役を選任しています。取締役会に出席し、取締役としての役割・責務を果たすとともに、グループ会社の経営会議等の業務執行会議にも可能な限り出席し、情報収集ならびに独立性の観点から自由に意見を述べる等、幅広く活動しています。

(取締役会の実効性評価)

取締役会全体が適切に機能しているか、2016年3月期から取締役会の実効性評価を開始し、評価結果の概要は当社ウェブサイトに掲載し開示しています。

監査等委員会

当社は、会社法上の機関設計として監査等委員会設置会社を選択し、独立社外取締役を3名とすることにより、業務執行の監督機能、助言機能、利益相反の監督機能の強化を行っています。

指名・報酬委員会

取締役会の諮問機関として、2名の独立社外取締役を含む3名で構成される「指名委員会」ならびに「報酬委員会」を設置し、取締役や主要な経営陣候補者の指名および解任や、取締役の報酬額の決定について、透明性、公平性、客観性を確保することで、コーポレート・ガバナンスのさらなる充実を目指しています。

グループ経営戦略会議

業務執行取締役委任された重要な事項については、「グループ経営戦略会議」において、審議し決定します。その他の業務執行に関わる事項については、グループ主要会社経営会議および事業セグメント経営会議において、審議し決定します。

コーポレートガバナンス・コードの対応

当社グループは、東京証券取引所の「コーポレートガバナンス・コード」の各原則のすべてを実施しています。なお、東京証券取引所に提出した73項目にわたる実施状況表を当社ホームページにて開示しています。

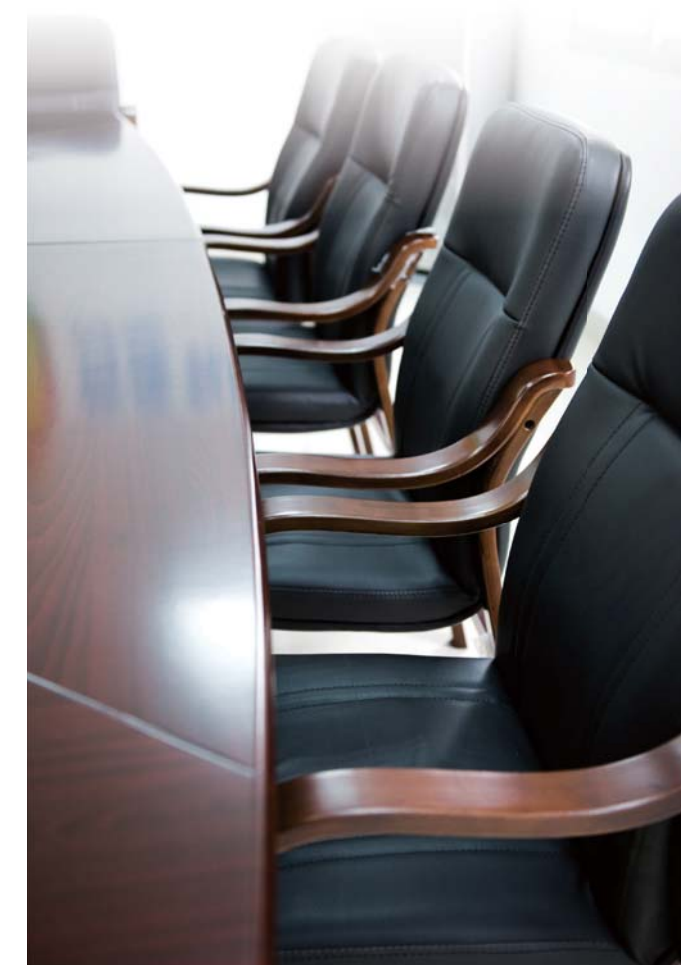
また「アサヒホールディングス コーポレート・ガバナンス基本方針」を制定し、各項目を実行することによりコーポレート・ガバナンスの継続的な充実を図っています。こちらもホームページに掲載しています。

» <http://www.asahiholdings.com/ir/library/governance/>

内部統制システムの整備

取締役会内に独立社外取締役3名を含む監査等委員会を設置し、監査部門、内部統制部門と協力して内部統制の強化を図っています。

監査部門は、業務の妥当性や有効性および法規制・社内ルールの遵守状況等について監査を実施し、各部署に助言・勧告を行うとともに経営層に速やかに報告しています。また、各部門の担当者が、年間計画に基づく内部監査を行い、内部統制推進会議等で報告を行っております。



» リスクマネジメント

企業活動上に顕在・潜在するさまざまなリスクを適切に管理するために、総合的な視点でリスクを把握し、評価および対策を実施しています。リスクマネジメントを推進することで、リスクの発生を未然に防止するとともに、危機に発展した場合の損失を最小限に留めるよう努めています。

コンプライアンス

コンプライアンスは公正な企業活動を実現するための重要課題であると位置づけており、法令順守および企業倫理の徹底に取り組んでいます。とりわけ、廃棄物の適正処理に関わる事業は環境関連法令や行政の許認可に基づいており、従業員一人ひとりが常に高い順法精神をもって行動することが求められます。コンプライアンスに関する規程やマニュアルを整備するとともに、社員教育や社員コミュニケーションの場において一人ひとりの順法意識の向上に徹底して取り組んでいます。

事業継続マネジメント(BCM)

大規模災害などのさまざまな要因によって当社グループの事業継続に必要な機能が低下するリスクがあります。当社グループでは、被害があった場合も早期に機能復旧をめざすためのアクションプランとして事業継続計画(BCP)を策定し、BCPや事業継続に関する取り組みを継続的に改善するための仕組みである事業継続マネジメント(BCM)の活動を行っています。

内部通報制度(アサヒホットライン)

社内で違法・不当な行為を発見した時など、国内外のグループ全従業員からの通報を直接受け付け、その適切な問題解決を図るため、「アサヒホットライン」を設けています。社内の窓口に加え、社外の法律事務所も窓口とし、匿名での通報も受け付けています。通報案件に関しては、通報者や被通報者の人権やプライバシー保護に配慮した上で調査を行い、是正措置を講じます。

情報セキュリティ

営業員が使用しているパソコンやタブレット端末には最新のセキュリティ対策が施してあり、万一端末の紛失や盗難にあった場合でも、リモート操作により情報削除を行うなどの手法で情報漏えいの可能性を限りなくゼロに近づけています。

役員紹介



寺山 満春

Profile

1964年 3月 東京大学経済学部卒業
1964年 4月 (株)クラレ入社
1973年 7月 アサヒプリテック(株)入社
1981年 5月 アサヒプリテック(株)代表取締役社長
2009年 4月 当社代表取締役社長
2011年 4月 アサヒプリテック(株)取締役会長
2014年 6月 当社代表取締役会長兼社長
2018年 4月 当社代表取締役会長(現任)



東浦 知哉

Profile

1984年 3月 大阪大学人間科学部卒業
1984年 4月 日本電気(株)入社
2001年 2月 アサヒプリテック(株)入社
2006年 6月 アサヒプリテック(株)取締役
2011年 4月 当社取締役
2014年 6月 アサヒプリテック(株)代表取締役社長
2017年 4月 アサヒアメリカホールディングス(株)代表取締役社長(現任)
2018年 4月 アサヒプリテック(株)取締役(現任)
2018年 4月 当社代表取締役社長(現任)



武内 義勝

Profile

1978年 3月 神戸大学法学部卒業
1978年 4月 (株)兵庫相互銀行入行
1999年 4月 アサヒプリテック(株)入社
2001年 6月 アサヒプリテック(株)取締役
2008年 5月 ジャパンウェイスト(株)代表取締役社長
2009年 4月 当社取締役(現任)
2018年 4月 ジャパンウェイスト(株)取締役会長(現任)
2018年 4月 アサヒライフ&ヘルス(株)取締役会長(現任)



小島 周

Profile

1992年 3月 慶応義塾大学商学部卒業
1992年 4月 日商岩井(株)入社
2009年 6月 ウェールズ大学経営大学院(MBA)修了
2011年 3月 アサヒプリテック(株)入社
2012年 4月 当社経理部長(現任)
2013年 1月 米国公認会計士(ワシントン州)登録
2017年 6月 当社取締役(現任)
2018年 4月 アサヒアメリカホールディングス(株)取締役(現任)



中西 広幸

Profile

1986年 3月 阪南大学商学部卒業
1986年 4月 アサヒプリテック(株)入社
2009年 6月 アサヒプリテック(株)執行役員
2013年 4月 ジャパンウェイスト(株)取締役
2016年 6月 (株)フジ医療器代表取締役社長
2018年 4月 アサヒプリテック(株)代表取締役社長(現任)
2018年 6月 当社取締役(現任)

監査等委員である取締役



森井 章二

Profile

1972年 3月 早稲田大学商学部卒業
1972年 4月 住友信託銀行(株)入行
2003年 6月 神戸空港ターミナル(株)代表取締役社長
2006年 6月 海上アクセス(株)代表取締役社長
2009年 6月 アサヒプリテック(株)社外取締役
2010年 6月 当社社外取締役
2015年 6月 当社社外取締役(監査等委員) / (現任)



田辺 幸夫

Profile

1981年 3月 横浜市立大学商学部卒業
1981年 4月 日本ビクター(株)入社
1988年 1月 ソニー(株)入社
2004年 9月 アサヒプリテック(株)入社
2008年 6月 アサヒプリテック(株)取締役
2009年 4月 当社取締役
2011年 6月 当社監査役
2015年 6月 当社取締役(監査等委員) / (現任)



木村 祐二

Profile

1978年 3月 東京大学理学部卒業
1979年 4月 環境庁入行
2006年 7月 環境省廃棄物・リサイクル対策部産業廃棄物課長
2010年 8月 新エネルギー・産業技術総合開発機構京都メカニクス事業推進部長
2012年 7月 財務省函館税関長
2014年10月 公益財団法人地球環境センター常務理事東京事務所長(現任)
2017年 6月 当社社外取締役(監査等委員) / (現任)



金澤 恭子

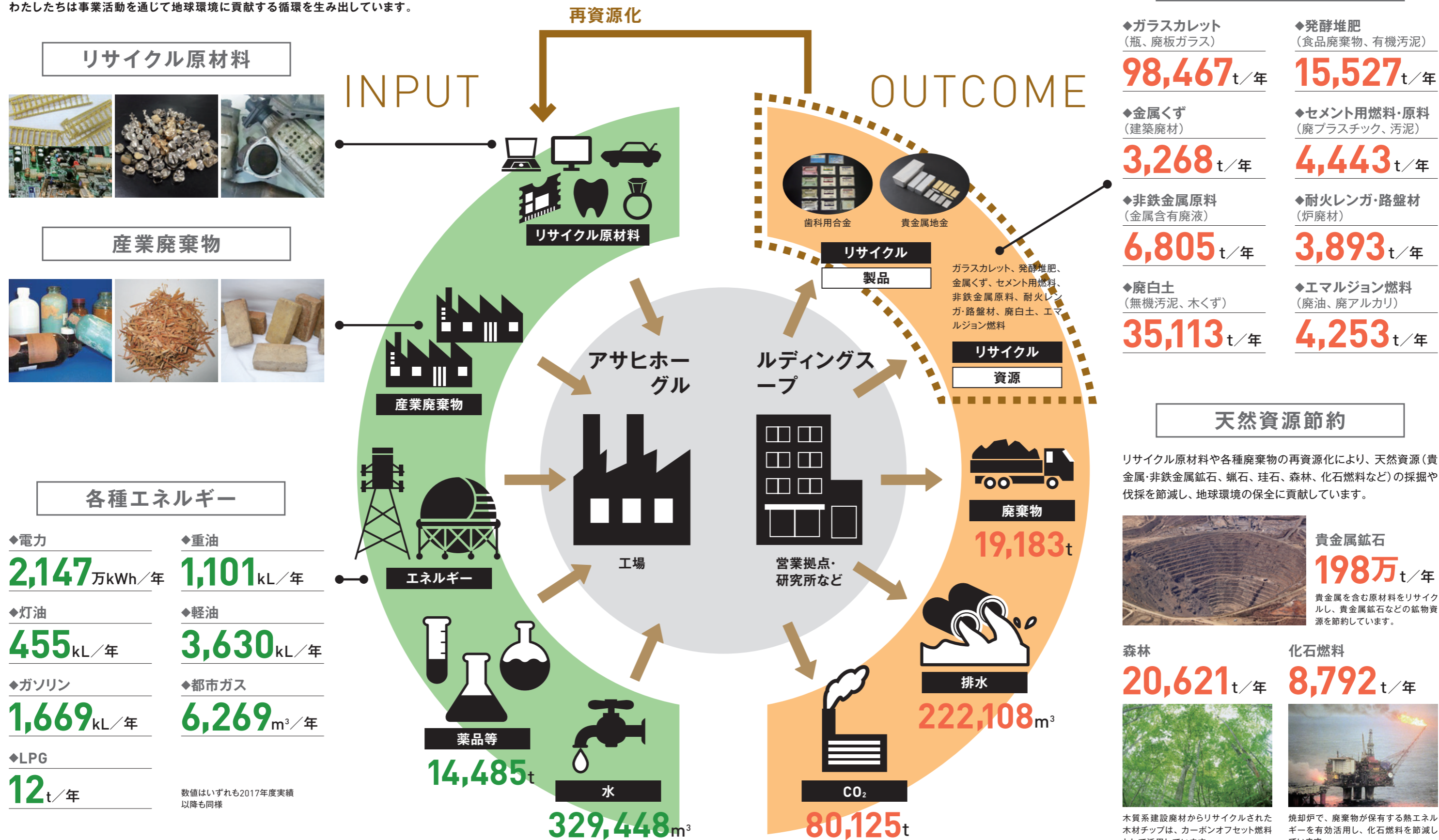
Profile

1988年 9月 英国ケント大学大学院修了
1989年 3月 学習院大学法学部卒業
1989年 4月 (株)富士総合研究所入社
2000年 4月 弁護士登録 / 煙法律事務所入所(現在に至る)
2017年 6月 当社社外取締役(監査等委員) / (現任)



アサヒホールディングスの環境貢献

わたしたちは事業活動を通じて地球環境に貢献する循環を生み出しています。



各種エネルギー

| | |
|---------------------|--------------------------------|
| ◆電力 | ◆重油 |
| 2,147 万kWh/年 | 1,101 kL/年 |
| ◆灯油 | ◆軽油 |
| 455 kL/年 | 3,630 kL/年 |
| ◆ガソリン | ◆都市ガス |
| 1,669 kL/年 | 6,269 m ³ /年 |
| ◆LPG | |
| 12 t/年 | |

数値はいずれも2017年度実績以降も同様

| | |
|--------------------|--------------------------|
| ◆ガラスカレット (瓶、廃板ガラス) | ◆発酵堆肥 (食品廃棄物、有機汚泥) |
| 98,467 t/年 | 15,527 t/年 |
| ◆金属くず (建築廃材) | ◆セメント用燃料・原料 (廃プラスチック、汚泥) |
| 3,268 t/年 | 4,443 t/年 |
| ◆非鉄金属原料 (金属含有廃液) | ◆耐火レンガ・路盤材 (炉廃材) |
| 6,805 t/年 | 3,893 t/年 |
| ◆廃白土 (無機汚泥、木くず) | ◆エマルジョン燃料 (廃油、廃アルカリ) |
| 35,113 t/年 | 4,253 t/年 |

天然資源節約

リサイクル原材料や各種廃棄物の再資源化により、天然資源(貴金属・非鉄金属鉱石、蠟石、珪石、森林、化石燃料など)の採掘や伐採を削減し、地球環境の保全に貢献しています。

| | | |
|--|--|---|
| 貴金属鉱石 | 森林 | 化石燃料 |
| 198万 t/年 | 20,621 t/年 | 8,792 t/年 |
| 貴金属を含む原材料をリサイクルし、貴金属鉱石などの鉱物資源を節約しています。 | 木質系建設廃材からリサイクルされた木材チップは、カーボンオフセット燃料として活用しています。 | 焼却炉で、廃棄物が保有する熱エネルギーを有効活用し、化石燃料を削減しています。 |

環境マネジメント

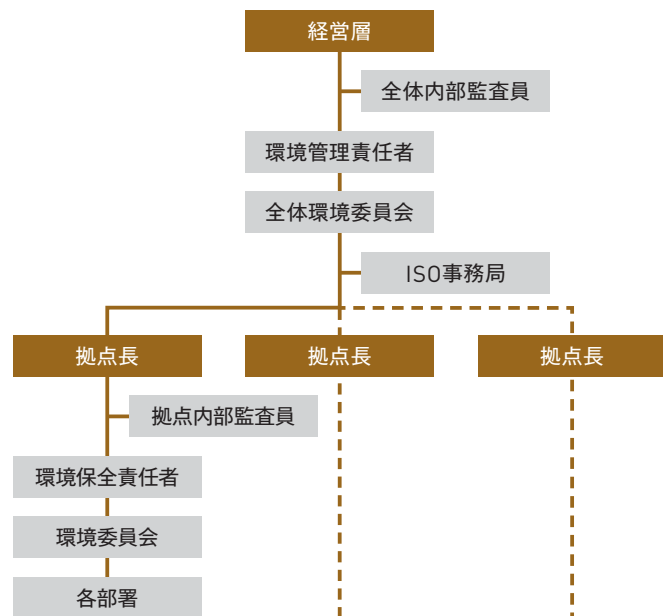
ISO14001認証取得状況

アサヒプリテックでは、全20拠点でISO14001の認証を取得しています。また、関係会社を含む当社国内事業所では、6社30拠点で認証取得しています。今後も、事業との一体化をキーワードとして、維持管理および改善活動に注力していきます。



ISO14001登録証

ISO14001統合認証取得拠点運営体制



環境マネジメント推進体制

環境保全の理念を定めた「環境方針」に基づき、「全社環境目標(年間計画)」を策定します。これを受け、ISO14001認証を取得している国内事業所では、「拠点環境目標(年間計画)」を策定し、業務に密着した環境保全活動を行います。また、各拠点の環境委員会は環境法規制の順守、計画の見直し、環境教育等を審議し経営層に報告しています。環境マネジメントシステム(EMS)はISO事務局が統括していますが、各事業所に環境保全責任者を設置し、推進の徹底を図っています。

環境方針

貴金属・希少金属リサイクル業と産業廃棄物処理業を中心とした各事業を通じて、地球環境の保全と循環型社会の形成に貢献します。

- | | |
|--|---|
| <p>(1) すべての事業活動において、環境負荷軽減のために、省資源、省エネルギー、廃棄物の削減およびリサイクルを図ります。</p> | <p>(4) 自然との調和、地域社会との共生を大切にし、関連する環境の法規制および当社が同意するその他の要求事項を順守します。</p> |
| <p>(2) 限られた地球資源をより一層有効に活用するために、貴金属・希少金属を中心とした資源のリサイクルを推進します。</p> | <p>(5) 環境目的・目標を定め、定期的に見直し改善します。</p> |
| <p>(3) 産業廃棄物の収集運搬・中間処理を適切かつ安全に行い、環境汚染を防止します。</p> | <p>(6) 社員が一市民としても環境保全活動に理解を深め、かつ行動するように教育・啓発を行い、意識の向上を図ります。</p> |

この環境方針は全従業員および組織のために働くすべての人へ周知するとともに、社外にも公開します。

従業員による環境保全活動 各地域で開催される清掃活動等に積極的に参加しています。



【阪神地区・海岸清掃】

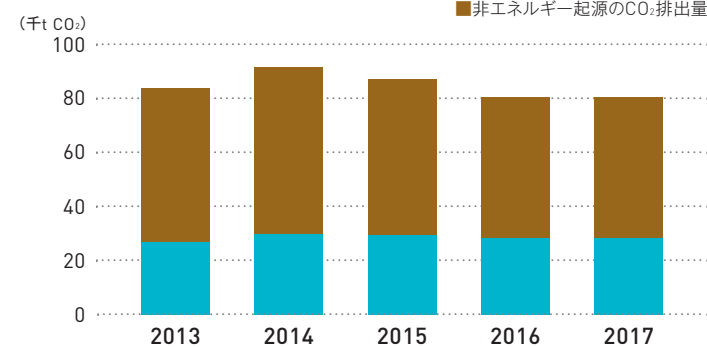
1988年以降毎年、近隣の海岸を清掃する活動に参加しています。兵庫県産業廃棄物協会主催の地域住民・事業者・学校・行政が一体となり行われるボランティア活動です。家族ぐるみで参加する社員も多く、和気あいあいとした雰囲気の中で清掃を行っています。



【古賀市・地域清掃活動】

地球温暖化防止への取り組み

温室効果ガス排出量



当社グループ全体の2017年度CO₂排出量は、前年度と同じ8万tとなりました。エネルギー起源のCO₂排出量に関しては、各拠点の照明をLEDに変更するなど省エネに努めましたが、電力会社のCO₂係数が上がったことにより、前年度と同じ水準になりました。非エネルギー起源のCO₂排出量は、グループ全体では産業廃棄物の焼却量が大きく変動しなかったため、前年度と同じ水準になりました。

温室効果ガス排出量は、温対法に準拠

太陽光発電システムについて

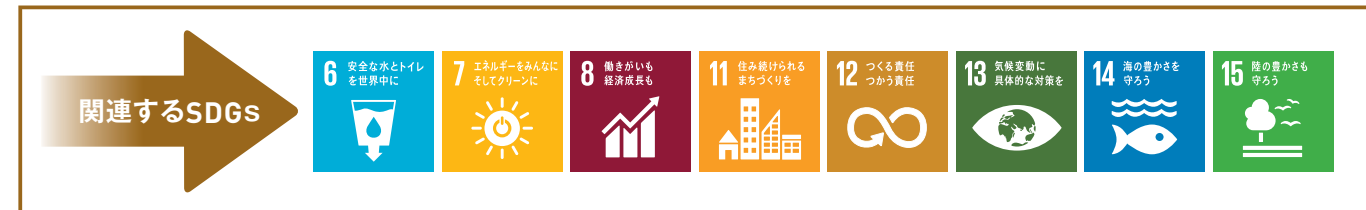
アサヒプリテックの阪神事業所・神戸事業所・テクノセンターでは、太陽光発電システムで発電を行っています。2017年度の総発電量は14万8千kwhであり、CO₂削減量に換算すると、62tに相当します。



モニターによる発電状況の紹介

LEDライトへの切替

アサヒプリテックでは環境負荷低減の目的で各拠点の照明をLEDライトに切替えるなど、環境に配慮された商品の購入を奨励しています。



»健康経営・安全な職場づくり

わたしたちは、従業員一人ひとりが心身ともに健康であることを経営課題のひとつとして捉える「健康経営」を推進しています。「健康で」「安全に」「安心して」働ける職場づくりを実践するために、さまざまな取り組みを行っています。

健康への取り組み(健康経営の推進)

法定を上回る健康診断制度

35歳から胃カメラ検査を推奨し、40歳から脳MRI・MRA検査やPET検査を定期的を実施しています。さらに再検査が必要な場合は、検査費用の補助を行っています。法定を大幅に上回る検査の受診率は100%で、会社と社員双方が健康増進、疾病の予防と早期発見に取り組んでいます。

メンタルヘルスケア

従業員の生産性や活力の向上には心の健康が不可欠であると考え、メンタルヘルス専門の産業医と連携し、個別相談会や予防セミナーを実施しています。また、50名未満の事業所も含めた全拠点でストレスチェックを実施しています。

インターバル勤務制度・深夜勤務の禁止

従業員の健康確保のために、勤務終了から翌日の勤務開始までの時間を11時間以上とするインターバル勤務制度を導入しています。また、22時から翌5時までの深夜時間帯は勤務禁止としています。

安全への配慮

OSHMSへの取り組み

労働災害を減少させるには、職場に潜在する無数のリスクに着目し、事前にリスクを減少させ、労働災害の芽を摘み取ることが重要です。当社は、労働安全衛生マネジメントシステム(OSHMS)の考え方を取り入れ、リスク低減による職場の安全衛生水準の向上をめざしています。

環境安全教育

環境安全教育は、社員研修制度の「人材育成プログラム」のなかで実施しており、安全に仕事を行うための心構えや、危険物の基礎知識などを教育しています。

安全活動に対する表彰制度

毎年、安全管理に貢献した事業拠点や社員を対象に社員総会の場で表彰を行い、安全意識の高揚に努めています。

緊急事態の対応

安全対策として、事業活動上のリスクを洗い出し、拠点ごとに「安全推進責任者」を決定し、予防策を講じるとともに、万一問題が起こった場合には、迅速に対応する体制を整えています。

»ワークライフバランス

やりがいのある仕事と充実した私生活のバランスをとりながら、持っている能力を最大限に発揮して人生を送ることは、従業員だけでなく会社にとっても大事なことです。私生活において重要なものは、家庭や健康、スポーツや趣味などの個人の価値観によってさまざまです。当社は、従業員が私生活と仕事のバランスをとれるようにサポートしています。

フレキシブル勤務制度

所定労働時間を業務の繁閑に応じて調整できる勤務(変形労働時間制)をフレキシブル勤務制度として実施しています。育児・介護、家族の行事に参加などプライベートの充実を図ることを目的に勤務形態の弾力化を進めています。また、ITの導入や無駄な業務の削減などにより、労働時間の適正化をさらに進めています。

育児介護休業制度

出産や育児、家族の介護などと仕事との両立を支援しています。育児介護休業制度にある短時間勤務等により、従業員のライフスタイルに合わせた働き方をサポートしています。



»ダイバーシティ・インクルージョン

性別や国籍にかかわらず多様な人材が生き生きと活躍できる職場づくりをめざしています。従業員一人ひとりが持つ強みを最大限に引き出し仕事に活かせるよう、また自分の仕事に「やりがい」「働きがい」を持って取り組めるように、さまざまなサポートを行っています。

両立支援

仕事と生活の調和を図り、働きやすい雇用環境の整備を行うために、次の取り組みを行っています。

- ・ 育休制度の理解と上司フォローの充実を図るために、本人および上司に育休前ガイダンスの実施
- ・ 女性社員を対象に、意識向上や働き方等を議論する座談会を開催
- ・ 育休復帰後の短時間勤務期限を「小学3年修了まで」から「小学6年修了まで」に延長
- ・ 介護短時間勤務の実施

障がい者雇用

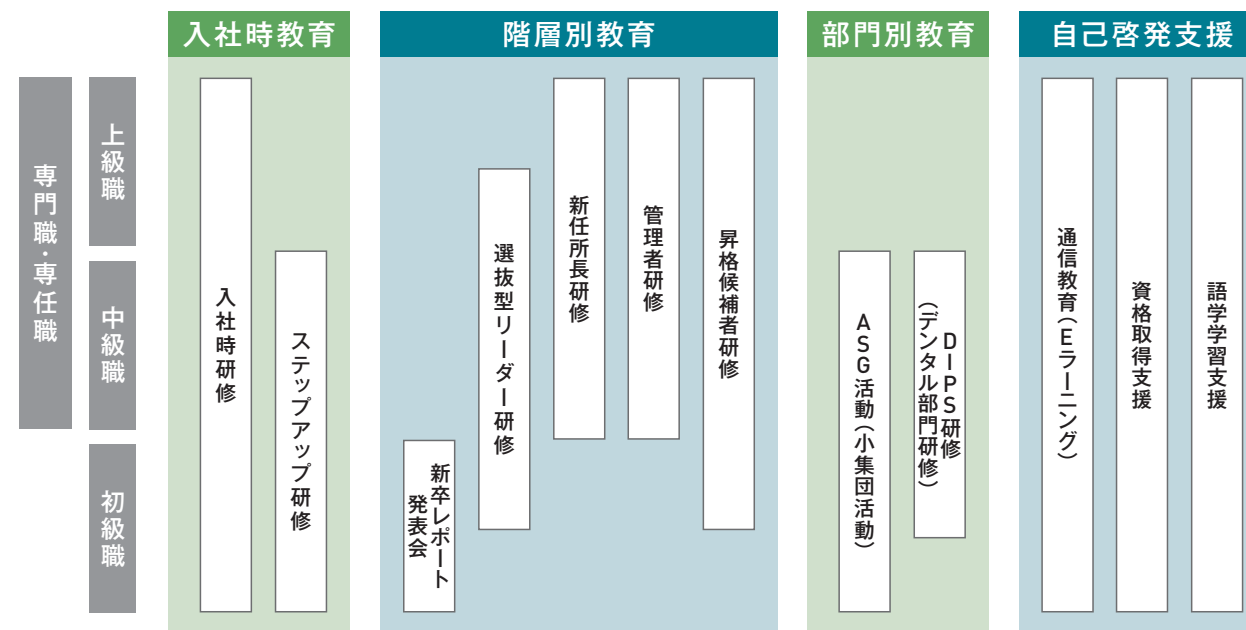
障がい者がごく普通に地域で暮らし、地域の一員としてともに生活できる「共生社会」の実現に当社は取り組んでいます。働きがいのある業務を最大限確保し、法定雇用率を上回る方々が就業しています。



»人材育成

社内のいかなる階層・職種にあっても、グローバルに活躍できるプロフェッショナル人材であることをめざし、独自の資格制度や社内教育カリキュラムを実施しています。さらに、従業員一人ひとりの業績貢献度を公正・公平に評価する成果主義人事制度を核に、チャレンジ精神を持った人材育成に努めています。

[教育体系]



»ステークホルダーとのコミュニケーション

株主・投資家の皆さまとともに

わたしたちは、株主・投資家の皆さまの期待にお応えするために、中期経営計画をはじめとして、当社のビジョンや経営方針等を分かりやすい形で説明し、企業情報を適時・適切に開示しています。また、企業の持続的な成長と価値向上を目指し、株主・投資家の皆さまとの建設的な対話を積極的に実施しています。

IR活動

当社グループは、年2回、第2四半期決算と年度決算の発表後に、経営層による決算説明会を開催しています。また、四半期ごとに国内外の投資家へ経営情報を直接説明する機会も設けています。これらの資料については、開催当日にホームページに掲載しています。このほかに、機関投資家・証券アナリストの皆さまとのコミュニケーションとして、個別面談を実施しています。海外機関投資家とも直接訪問、あるいは電話面談による対話により、当社の経営方針やガバナンスについて説明を行い、建設的な対話を実施しています。当社グループの経営方針・経営状況を報告するツールとして、和文・英文によるコーポレートレポートや報告書を発行し、適切で透明性の高い情報開示に努めています。

HPを通じたIR情報

株主・投資家の方々に当社グループの経営状況や事業戦略をご理解いただくために、当社ウェブサイト上でIR情報を発信しています。決算短信、有価証券報告書などのほか、コーポレートレポートなどの資料も掲載しています。今後も分かりやすくタイムリーな情報開示に努めていきます。

株主総会

毎年6月、定時株主総会を神戸ポートピアホテルで、いわゆる「集中日」を避けて、集中日の7営業日程度前に開催しています。株主総会は、株主の皆さまとのコミュニケーションの場でもあります。株主の皆さまの声に、経営層が直接お応えし、当社グループの経営に反映させるとともに、株主の皆さまにわかりやすい運営をめざしています。

お取引先の皆さまとともに

わたしたちは、「お客さま第一主義」を合言葉に、お取引先の皆さまの幅広いニーズにきめ細かく対応できるよう努めてまいります。

公正取引に関する取り組み

当社グループは、アサヒウェイの「アサヒホールディングスグループ 10の規則」において、「公平な競争を阻害する行為の禁止」「お取引先の情報や技術等の機密保持」「不適切な利益授受の禁止」などを定め、公正取引や企業倫理の順守を徹底しています。

品質保証体制

アサヒブリテック(株)では品質保証部門が中心となり、営業部門、技術開発部門、製品製造部門が合同で「品質保証会議」を開催しています。この会議を通じてお客さまの声や市場の動向などを共有化し、お客さま満足度の向上に取り組んでいます。また、お客さまにより安心・満足していただける製品を提供するためにISO9001を取得し、品質マネジメントシステムの継続的改善・品質の維持向上に努めています。2010年3月には、ISO9001取得4拠点の認証を統合し、全社一体となった品質管理システムの運用を開始しました。さらに当社はグリーン調達や欧州の化学物質規制法であるRoHS指令、REACH規制にも配慮し、環境負荷低減や有害物質の拡散防止に努めています。

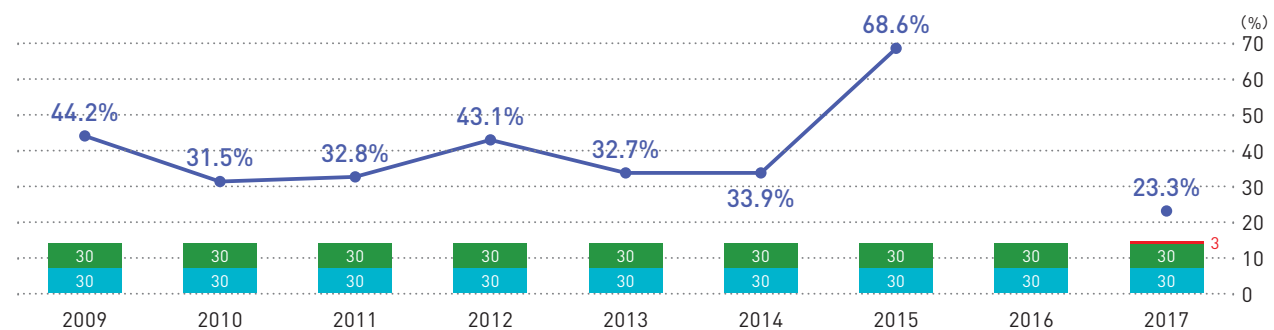


[株主還元の基本方針]

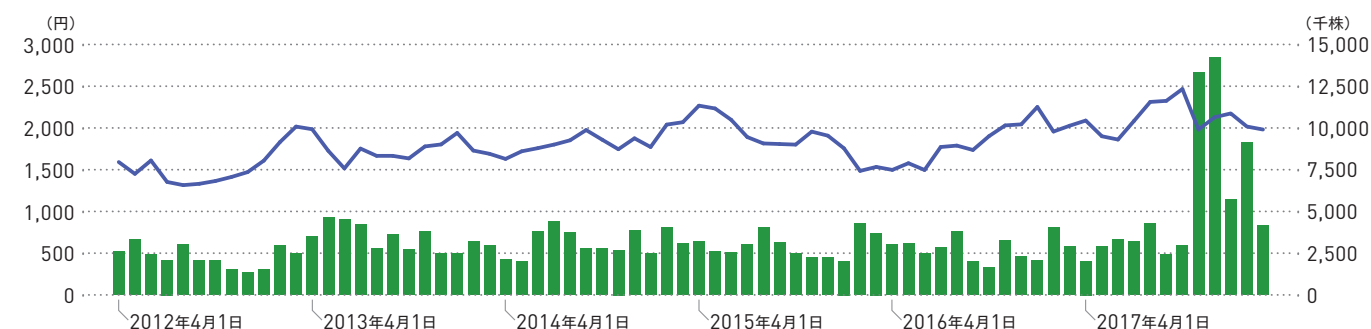
当社は、安定した収益力と持続的成長の維持により企業価値の向上を図り、継続的な安定配当等を通して株主の皆さまの期待に応えることを基本方針として掲げています。また、成長分野への投資や新規事業開発に備えるために、内部留保の充実を図ることも重要であると考えています。

上記方針のもと、剰余金の配当につきましては、各事業年度の業績、財務体質のさらなる強化、当社グループの経営戦略等を勘案して、連結配当性向30%以上を継続的に維持し、安定配当を行うことを指針としています。

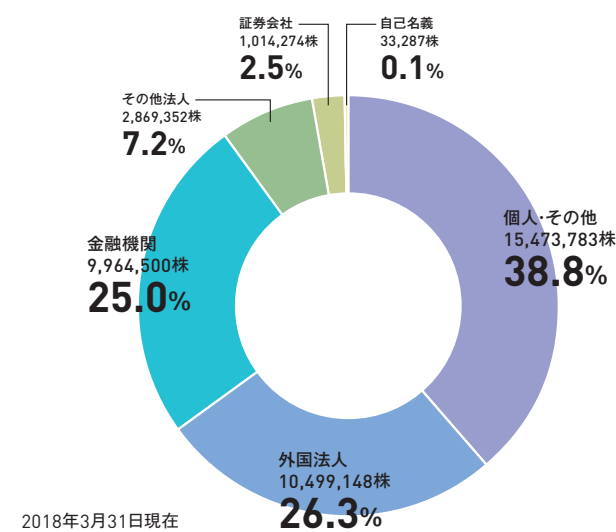
1株あたり配当金と配当性向 ■ 記念配当 ■ 期末配当 ■ 中間配当 ● 配当性向



株価推移 ■ 売買高(株) ■ 終値



所有者別株式分布状況



2018年3月31日現在

【新株発行等による増資】

2017年12月に新株式発行等による増資を実施いたしました。アサヒホールディングス(株)設立以前の2004年にスイスフラン建転換社債型新株予約権付社債を起債して以来のエクイティファイナンスでした。これにより資本の充実を図り、第8次中期経営計画以降におけるITを含む新技術投資、生産性向上のための各種設備投資、新規事業開発等に取り組めます。

地域社会の皆さまとともに

全国各地で事業活動を展開する当社グループにとって、地域社会の皆さまのご理解とご支援は必要不可欠なものであります。企業市民として地域社会と共生する企業であり続けるために、わたしたちはさまざまな形で地域や環境に根ざした社会貢献活動を行っています。企業市民としての責任を果たすとともに、より健全な社会の発展に向けて、積極的に貢献していきたいと考えています。

事業を通じた社会貢献

当社は、日本財団と日本歯科医師会の協力により推進されている「TOOTH FAIRY(歯の妖精)」プロジェクトへ協力企業として参画しています。

歯科医院で治療の役割を終えた貴金属のリサイクル活動による支援を行い、リサイクルされた金、パラジウムなどの貴金属の売却を通じて得られた利益は各団体の活動資金として役立てられています。

また、特定非営利団体のメドゥサン・デュ・モンドジャポンや日本口唇口蓋裂協会等のボランティア団体が実施している医療支援活動の趣旨に賛同し、活動支援を行っています。



従業員とともに

社員総会の開催

社員総会を毎年開催しています。社員総会ではトップメッセージ、前期実績に関する説明と当期重点課題の発表や、経営陣と従業員のディスカッションなどを行っています。

小集団活動による活力ある職場形成

同一職場内の従業員による自発的・主体的な参加のもと、ASG活動(Asahi Small Group活動)を行っています。活動を通して創意工夫を行い、職場内の問題解決を図っています。優れた取り組みを行ったグループには社員総会で表彰を行っています。

自己申告制度

全従業員が年に1回、申告書で仕事上の能力発揮度、適性、やりがい・達成感、人間関係・職場の雰囲気等の各項目に関して自己評価を行い、自らが希望するキャリアプランも記入します。

各自が申告書を直接人事部に提出し、人事部は申告内容をもとに担当役員や上司とともに、人員配置の見直し、職場の雰囲気の改善や各自のやりがいを促しています。



グループ会社体系図

アサヒホールディングス(株)

アサヒプリテック(株)

貴金属事業(貴金属リサイクル事業)
※アサヒプリテックは環境保全事業も一部行っています

ASAHI G&S SDN. BHD.

上海朝日浦力環境科技有限公司

韓国アサヒプリテック(株)

朝日浦力科技股份有限公司

ジャパンウェスト(株)

環境保全事業

JWケミテック(株)

日本ケミテックロジテム(株)

JWガラスリサイクル(株)

(株)太陽化学

富士炉材(株)

(株)イヨテック

エコマックス(株)

アサヒライフ&ヘルス(株)

ライフ&ヘルス事業

(株)フジ医療器

Fujiiryoki, Inc.

(株)インターセントラル

紘永工業(株)

アサヒアメリカホールディングス(株)

貴金属事業(北米精錬事業)

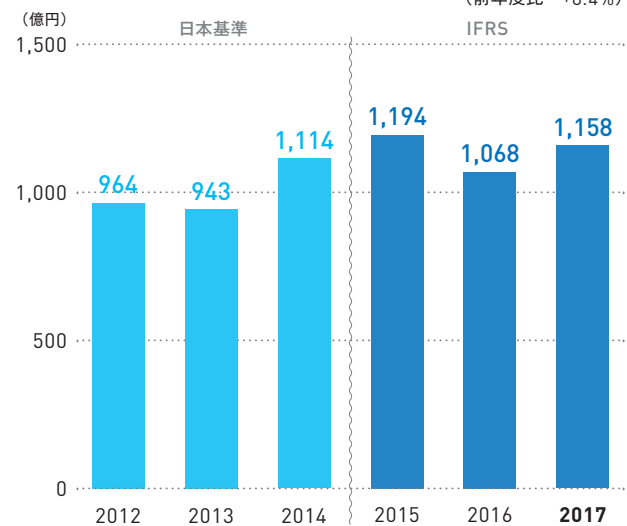
Asahi Refining USA Inc.

Asahi Refining Canada Ltd.

財務ハイライト・非財務ハイライト

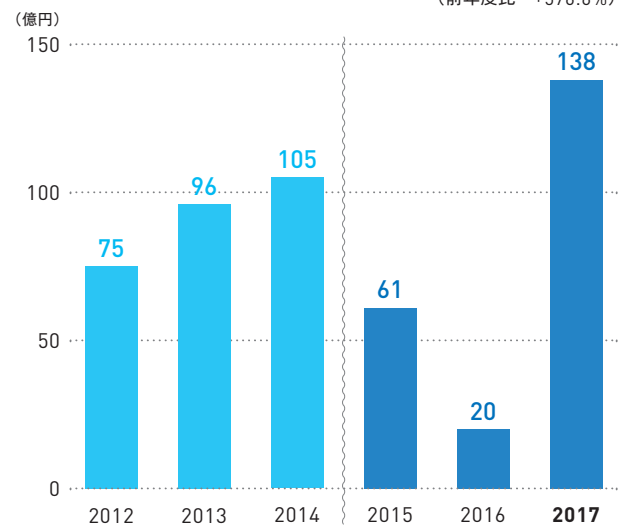
売上収益 1,158億円

(前年度比 +8.4%)

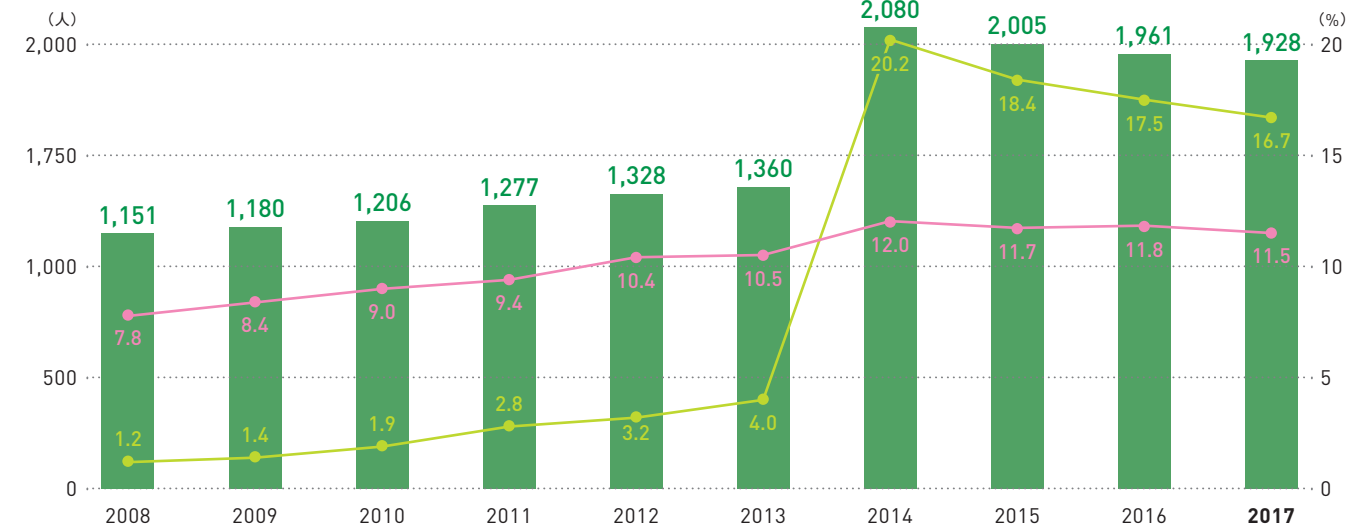


営業利益 138億円

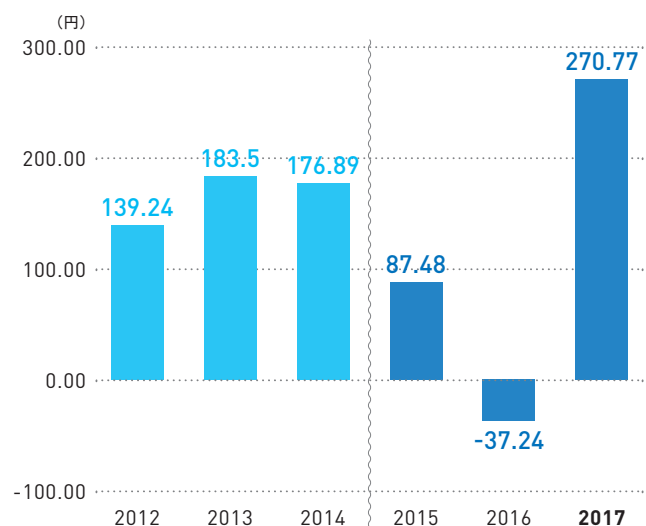
(前年度比 +576.6%)



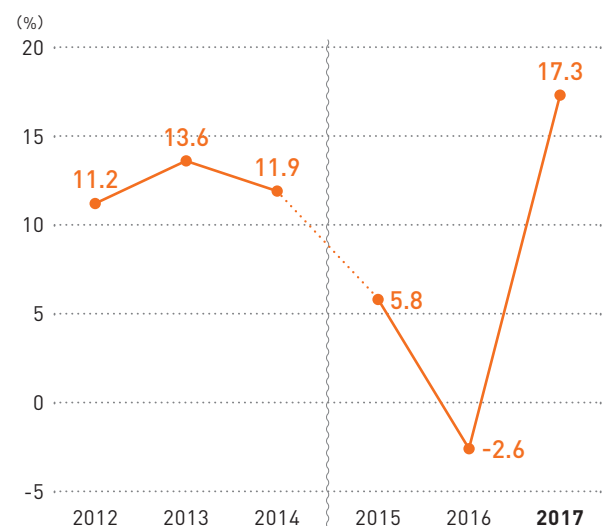
従業員数



EPS 270.77円



ROE 17.3%



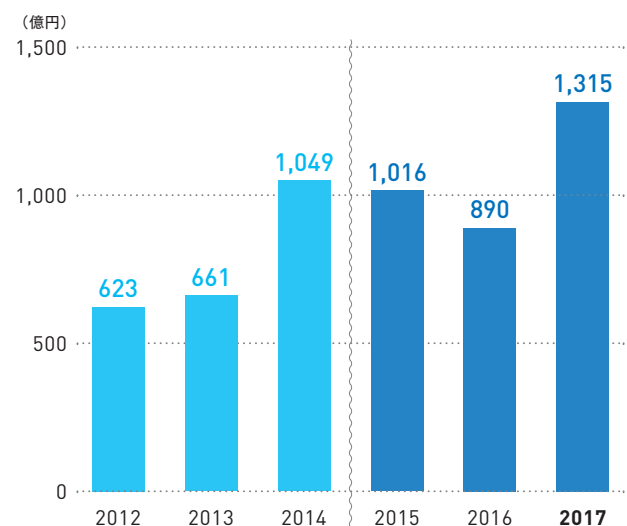
10年間の推移

[財務データ]

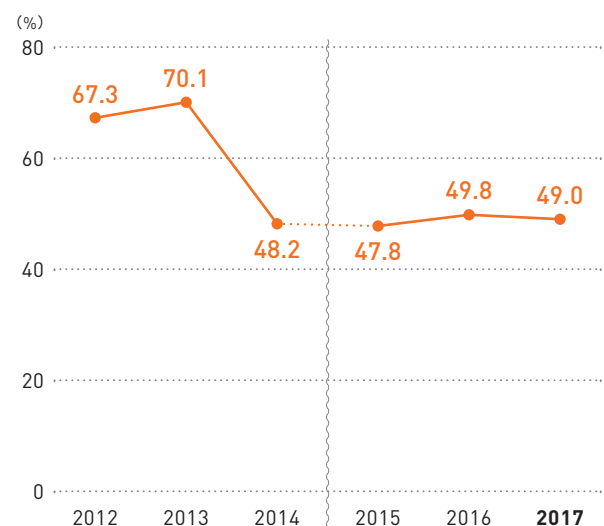
| | 単位 | 2008 | 2009 | 2010 | 2011 | 2012 | 2013 | 2014 | 2015 | 2016 | 2017 |
|--------|----|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|-------|--------|--------|
| 売上収益 | 億円 | 1,264 | 826 | 1,105 | 1,511 | 964 | 943 | 1,114 | 1,194 | 1,068 | 1,158 |
| 営業利益 | 億円 | -4 | 79 | 107 | 112 | 75 | 96 | 105 | 61 | 20 | 138 |
| 営業利益率 | % | -0.3 | 9.5 | 9.6 | 7.4 | 7.8 | 10.2 | 9.4 | 5.1 | 1.9 | 11.9 |
| 当期利益* | 億円 | -6 | 44 | 61 | 59 | 45 | 60 | 58 | 29 | -12 | 94 |
| EPS | 円 | -16.91 | 135.90 | 190.46 | 183.20 | 139.24 | 183.50 | 176.89 | 87.48 | -37.24 | 270.77 |
| ROE | % | -1.9 | 15.4 | 19.1 | 16.2 | 11.2 | 13.6 | 11.9 | 5.8 | -2.6 | 17.3 |
| 資産合計 | 億円 | 456 | 501 | 591 | 583 | 623 | 661 | 1,049 | 1,016 | 890 | 1,315 |
| 自己資本比率 | % | 59.3 | 59.6 | 58.0 | 66.6 | 67.3 | 70.1 | 48.2 | 47.8 | 49.8 | 49.0 |

*2015年度以降は「親会社の所有者に帰属する当期利益」

資産合計 1,315億円



自己資本比率 49.0%



[非財務データ]

| | 単位 | 2008 | 2009 | 2010 | 2011 | 2012 | 2013 | 2014 | 2015 | 2016 | 2017 |
|------|----|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|
| 従業員数 | 人 | 1,151 | 1,180 | 1,206 | 1,277 | 1,328 | 1,360 | 2,080 | 2,005 | 1,961 | 1,928 |
| 女性比率 | % | 7.8 | 8.4 | 9.0 | 9.4 | 10.4 | 10.5 | 12.0 | 11.7 | 11.8 | 11.5 |
| 海外比率 | % | 1.2 | 1.4 | 1.9 | 2.8 | 3.2 | 4.0 | 20.2 | 18.4 | 17.5 | 16.7 |

【編集方針】

本レポートは、アサヒホールディングス株式会社の事業の全体像や考え方を中心に、事業を通じて社会的課題にどう立ち向かい、どのような価値を生み出していくのかを、広く、深く、皆さまにご理解いただくためのコミュニケーションツールとして作成しています。また、当社グループの具体的な事業内容や取り組みについても紹介することで、会社案内としての役割も兼ね備えています。

【対象期間】

2017年4月～2018年3月

【対象組織】

原則として、当社と連結子会社を含むグループ全体を対象としています。環境活動・非財務データの一部分については、当社および主要なグループ会社を対象としています。

【数値とグラフに関して】

記載の数値は、億円未満については四捨五入をしているため、個々の数値と合計が一致しない場合があります。2016年度よりIFRSを適用しており、各項目名は基本的にIFRS適用後の表記としています。また、前年の2015年度よりIFRS基準での数値にて記載しております。

【将来見通しに関する注意事項】

本レポートには、当社グループの過去と現在の事実だけでなく、将来の計画や見通し、経営計画に基づいた予測が含まれています。これらは、記述した時点で入手できた情報に基づいて作成しています。したがって、実際の業績や活動結果は、将来の経営環境の変化によって大きく異なる可能性があります。

アサヒホールディングス株式会社

印刷に当たっての環境配慮について

- 用紙 適切に管理された森林からの原料を含む「FSC®認証紙」を使用しています。
- インキ 揮発性有機溶剤を含まない「VOCゼロ型インキ」を使用しています。
- 印刷 アルカリ性現像廃液やイソプロピルアルコールなどを含む「湿し水」を使わない「水なし印刷方式」を採用しています。

